

リアホナ

救い主は
信仰ある女性たちを
どのように
祝福されたでしょう、
32ページ

宗教の自由を擁護する理由と方法、
16ページ

疑問を解決する正しい方法、38ページ





「すると
イエスは言われた、
『あなたがたの信仰が
足りないからである。
よく言い聞かせておくが、
もし、からし種一粒ほどの
信仰があるなら、
この山にむかって
「ここからあそこに移れ」
と言えば、移るであろう。
このように、
あなたがたに
できない事は、
何もないであろう。』」

マタイ 17:20

さやの中で成長する
これらのからし種は
さまざまな種類があり、
イスラエルでよく見かける。
1インチ余り(3センチ)の
このまっすぐなピンは、
種のサイズを示すために
写真に収められている。



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
主の優しい御腕に抱かれて
ディーター・F・ウクトドルフ管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
イエス・キリストの特質
——寛容と忍耐

特集

- 16 神の証人になる
ダリン・H・オクス長老
わたしたちの基本的な信条に挑んで
くる世にあって、わたしたちは自分
の宗教を自由に実践する権利を
主張するために一つとならなければ
なりません。
- 24 サタンの背き
マーク・A・マシューズ
前世でのサタンの背きについて理解
することは、天の御父の計画の中での
規則や標準、律法の役割をはっきり
と理解するうえで役立ちます。
- 28 鉄の棒につかまる
ウリセス・ソアレス長老
暗闇の霧の中でさえ、鉄の棒につか
まりそれを離さないようにするには
どうしたらよいでしょうか。
- 32 女性に対する救い主の敬意
ロバート・ランド、マリー・ランド
これらの4人の女性たちへの主の
接し方から、キリストについてもっと
よく学ぶことができます。

38 疑念や疑問が生じたら

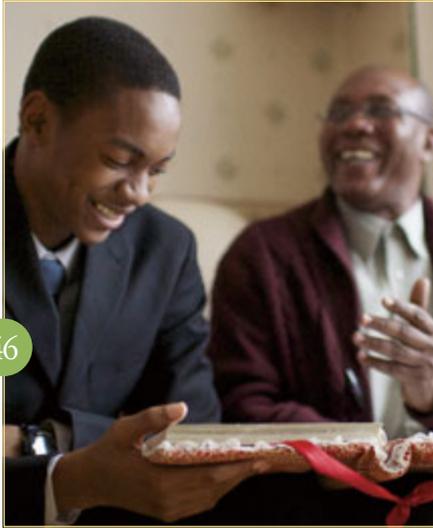
アダム・コッター
福音について疑問を持つことは問題
ではありません。大切なのは、その
疑問にわたしたちがどう取り組むか
なのです。

シリーズ

- 8 2014年10月の大会ノート
- 10 わたしたちの家庭、
わたしたちの家族——
難しい問題について話し合う
シェリー・リン・クラーク
- 13 熟考——祖父、御父
アロン・L・ウェスト
- 14 キリストについて語る——
全ての試練は
さらに大いなる信仰をもたらす
ジョルジャ・ムルジア
- 42 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——
岩の上に建てる
オーソン・F・ホイットニー長老

表紙

表紙——
「ラホニ」 絵/マイケル・マーム
表紙裏——
写真/デビッド・ストーカー
裏表紙裏——
フォトイラストレーション/コディー・ベル



46

46 両親から学んだこと

どのように働き、祈り、天の御父に頼るべきかについて、ヤングアダルトが親から学んだ幾つかの教訓を紹介してくれました。

50 新しい目的地

アマンカイ・コテカ・ミーニョ
証のおかげで、人生が次にどんな目的地にわたしを導こうと自分は独りではないことを、今は理解することができます。

こんげつごう なか
今月号の中に
かく 隠れているリアホナを
さが 探しましょう。
ヒント——
よく休んで
にちようび 日曜日の朝を
むか 迎えましたか？

52 自分が持つ以上の力

デビッド・A・ベドナー長老
イエス・キリストの贖罪が持つ、人に能力を授ける力は、より善い人になり、もっと忠実に奉仕したいと願う人々を助けてくれます。

56 誰が準備ができていないか 決めつけない

ランドール・L・リッド
誰が福音を受け入れる準備ができていないか、誰にも分かりません。

58 勇気を出して福音を伝える

福音を分かち合うことについての恐れに打ち勝つための3つの方法

60 忘れないでください 選ぶのは彼らです

福音を分かち合ううえでの成功は、相手がどう応えるかではなく、あなたが何を行うかによって測られます。

62 誘い、フォローアップする

キリストのもとに来る機会というボールを友達に「パス」する11の方法



77

66 ひみつを話す

デビッド・ディクソン
とても大切なことなので守るわけにはいかないひみつというものもあります。

68 いつ話すべきですか

ジャン・ピンボロー
ひみつを守るべきか話すべきか、どうしたら分かるでしょう。

69 特別な証人——

わたしたちはなぜそう大会を聞く必要があるのでしょうか。
ロバート・D・ヘイルズ長老

70 ふっかつさいの じゅんびをする

キリストのふっかつをおいおいするよういをするために、ふっかつさいの前のしゅうに、このかつどうをしましょう。

72 すぐに理解する

リチャード・M・ロムニー
新しい友達マイアが初等協会にかけいされていると感じられるようにマグノリアがどのように助けたかを讀んでください。

74 聖文の時間——

かしこい人とおるか者
ジーン・ピンガム

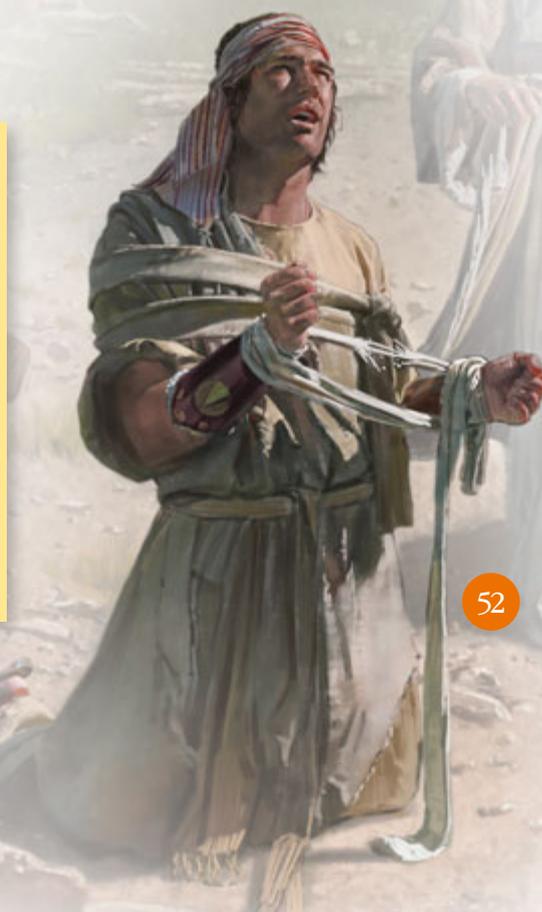
76 色を めりましょう

77 星の下で読む聖文

ボニー・L・オスカーソン
星を見上げながら、兄がモルモン書から物語を話してくれるのを聞くとき、わたしは温かく、幸せな気持ちを感じました。

78 小さな みんなのために——

土曜日によくねて、日曜日はえがおで
ミッチェ・バルボサ



52

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



「疑念や疑問が生じたら」38 ページ — 記事を読んでから、疑問と疑念の違いについて家族で話し合うとよいでしょう。疑問を抱いた人たちの話を聖典から読み、彼らがその疑問にどう対処したか調べましょう(例 — 1 ニーファイ 11 章; エテル 2 : 19 – 3 : 16; ジョセフ・スミス—歴史 1 : 10 – 19; この記事の注 1 に記されている参照聖句など)

家族の何人かにどのような疑問があるか尋ねてもよいでしょう。それから聖典、lds.org/topics (訳注 — 各項目の言語選択欄に「日本語」があるものは日本語で閲覧できる) または自分の経験から答えを探しましょう。自由に正直に話し合える雰囲気家庭に作り出すことにより、家族は疑問を抱いたときに安心してそれを口に出来るでしょう。

「ふっかつさいの じゅんびを する」70 ページ — 家庭の夕べの前に、日々直面する問題を紙に書いておくとよいでしょう。例えば、「おもちゃを貸してくれない弟に対して怒る」「ある晩仕事から帰って来たお父さんが悲しそうな顔をしているのに気づいた」など。子供たちに、順番に紙を選んでもらい、状況を読み上げ、その状況でどのようにして救い主のようになれるか提案してもらいましょう。この記事に書かれている復活祭の活動を紹介してください。7 日間チャレンジに取り組み、イエス・キリストについて学び、その模範に従うよう、それぞれの子供を励ましましょう。

あなたの言語で

languages.lds.org で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- | | | |
|--------------------------------|------------------------|------------------------------|
| 愛, 44 | 悔い改め, 28, 50 | 伝道活動, 50, 52, 56, 58, 60, 62 |
| 証, 38, 50, 74, 77 | 啓示, 38, 69, 80 | 慰め, 4, 14 |
| 安息日, 78 | 自由, 16 | 忍耐, 7 |
| イエス・キリスト, 4, 7, 32, 52, 70, 74 | 従順, 16, 24, 28, 38, 45 | 秘密, 66, 68 |
| 祈り, 16, 42 | 贖罪, 4, 52, 70 | 復活祭, 32, 70 |
| 受け継ぎ, 13 | 女性, 32 | 奉仕, 44, 72 |
| 親の務め, 10, 46 | 試練, 14, 42 | 恵み, 52 |
| 改心, 50 | 信仰, 14, 32, 38 | モルモン書, 16, 77 |
| 回復, 80 | 聖文研究, 43, 74, 77 | 友情, 66, 72 |
| 家族, 10, 14, 46 | 選択の自由, 24, 60 | 預言者, 45, 80 |
| | 総大会, 45, 69 | |



大管長会第二顧問
ディーター・F・
ウークトドルフ管長

主の優しい御腕 に抱かれて

他の多くの人と同じように、わたしもしばしば美術や音楽の美しい作品に心を鼓舞されてきました。そのような経験の一つが、デンマークの画家フランス・シュバルツの「園での痛み」と題するすばらしい絵画を前にしたときのことです。¹

とても美しいこの絵画は、ゲツセマネの園でひざまずいておられる救い主を描いたものです。祈っておられる救い主の傍らに一人の天使が立ち、救い主を優しく腕に抱いて、慰めの言葉を掛け、天からの助けと支えを与えています。

この絵画をじっと見詰めていると、わたしの心と思いは言葉に表せない優しい気持ちと感謝の念で満たされます。救い主が世の罪を御自身に負うという、死すべき世における最も大いなる業を始められたとき、どのようなことが起こっていたか、多少なりともわたしは感じることができます。御父が御自分の子供たちに対して抱いておられる無限の愛と思いやりには驚嘆するばかりです。罪のない御子が全人類のために、またわたしのために行ってくださったことに対する深い感謝の気持ちでいっぱいになります。

神の御子の犠牲

毎年この時期に、わたしたちは、イエス・キリストが全人類のために払ってくださった犠牲を記念し、深く思い巡らします。

救い主がゲツセマネからゴルゴタに至るまでの間に、わた

したちのためにしてくださったことは、わたしの理解力をはるかに超えています。救い主はわたしたちの罪の重荷を御自身に負われました。そして、アダム最初の背きだけでなく、かつて世に生を受けた何十億もの人々の何十億もの罪と背きについても、永遠に効力のある贖いをされたのです。この永遠の、神聖な犠牲は、「すべての中で最も大いなる者である」神でさえも「苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に痛みを受けたほどのもの」でした（教義と聖約 19 : 18）。

救い主はわたしのために苦しみました。

救い主はあなたのために苦しみました。

この犠牲の大切な意味をじっくり考えるとき、わたしの霊は感謝の思いで満たされます。この賜物を受け入れて心を救い主に向ける人は皆、その人の汚れがどれほどひどくても、あるいは重荷がどれほど堪え難いものであっても、救いを与えられ、罪からの清めを得られるということをわたしは知っており、謙虚な気持ちになります。

わたしたちは再び染みのない、清い者となることができます。愛する救い主の永遠の犠牲によって贖われるのです。

わたしたちを慰めてくださる御方

わたしたちは誰一人として、主が経験されたほどの深い苦しみを味わうことは決してありませんが、それでもそれぞれ



に抱いてくださいます。

主はわたしたちにとって天使以上の御方となります。

慰めと癒やし、希望、赦しを祝福として与えてくださいます。

主はわたしたちの贖い主です。

わたしたちの解放者です。

あわ
憐れみ深い救い主、わたしたちの愛する神なのです。■

注

1. フランス・シュバルツの葬儀で話をした司祭はこう述べている。「彼の作品は神から授けられたものであり、多くの説教以上の価値があるように思われました。」(エミリー・ブキャナン・ウィットロック, "History of Artists' Lives Gives Greater Context for Exhibit," *Deseret News*, 2013年9月29日付, deseretnews.com)

が自分にとっての暗い、つらい時間を過ごすことがあるでしょう。それは、耐えられない大きな憂いと悲しみであるかのように思われる時間です。罪の重荷と後悔の念が容赦なくのしかかってくる時があるでしょう。

しかしそのようなときに心を主に向けるなら、確かに主はわたしたちのことを知り、理解して下さるのです。御自身のことはさておいて園と十字架上でわたしたちのために苦しみを負ってくださった御方が、今わたしたちを

慰めずに放置しておかれることはありません。主はわたしたちを強め、励まし、祝福してください。優しい御腕

このメッセージから教える

教える前に、あなたが教える人たちの必要としている事柄を理解できるように、御霊の導きを求めてください。ワークドルフ管長のメッセージからその一部を伝えるときに、救い主とその贖いの犠牲について証を述べてください。あなたが教える人たちに、救い主の贖罪は彼らにとってどのような意味があり、また彼らは「暗い、つらい時間」にどのように主の慰めを感じたか、尋ねるとよいでしょう。

イエス・キリストによる勝利

匿名

わたしは過食という問題を抱えていました。おなかいっぱいになるまで食べることを何度も繰り返し、その結果、ひどい罪悪感と欲求不満を抱え、失望を感じるようになりました。問題を克服しようとしたときに、自分はとても弱いと思いました。



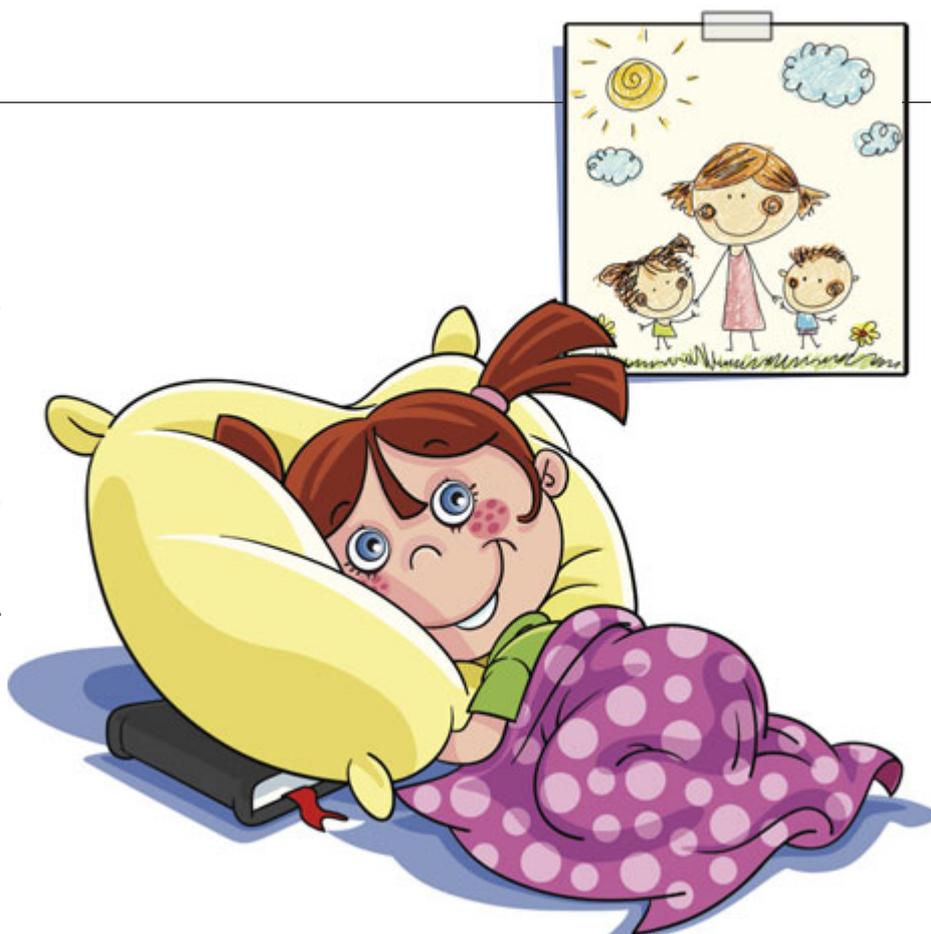
そこでわたしは救い主にすがることにしました。そして祈りました。わたしは自分に弱さがあり、恵みが必要であることを心から認めました。それから天の御父に、わたしを祝福し、御父の助けを近いうちに与えてくださるようお願いしました。するとその晩、愛に満ちた御父は御自分の息子を助けたいという計り知れない望みを抱いておられ、御心みこころを果たす確かな力をお持ちの御方である、という確信を得たのです。

その晩以降、もう食べ物に影響されることはなくなりました。そうなれたのはイエス・キリストのおかげであることを、わたしは知っています。パウロと同じように、「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができるよう」(ピリピ 4:13) ということを学んでいます。またわたしは、パウロのもう一つの教えを決して忘れないように努めています。「感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。」(1コリント 15:57)

子ども

しゅが
なぐさめてくださいます

かぞくや とも友だちに、すくいぬしから なぐさめをうけたときのことについて 聞きます。あなたが すくいぬしから なぐさめをうけたときのことについて かんが考えてみてください。そのときのけいけんについて 絵をかいて、あなたがねるへやに かざり、イエス・キリストは いつも そばにいて、あなたを おもなぐさめてくださることを だ思い出してください。



祈りをもってこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるよう祈り求めてください。
救い主の生涯と役割が理解できるようになると、救い主を信じるあなたの信仰はどれほど増し、
家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹にどれほど祝福が注がれるでしょうか。
詳しくは <https://www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn> をご覧ください。

イエス・ キリストの特質—— 寛容と忍耐

本記事は、救い主の特質に焦点を当てた
家庭訪問メッセージシリーズの一環です。

忍耐はしはしば、静かで受動的な特質と考えられています。しかし、大管長会第二顧問のディーター・F・ウークトドルフ管長が述べたように「忍耐とは、無抵抗に諦めることでも、恐れて行動しないことでもありません。忍耐とは、積極的に待つことでも、望むように事が進まなくても……です。忍耐は単なる我慢ではなく、よく堪え忍ぶことなのです。」

前世において、天の御父はわたしたち、すなわち神の霊の子供たちのために、一つの計画を用意されました。わたしたちは地上に来られる機会を喜び呼ばわれました（ヨブ 38：7 参照）。わたしたちが地上にいる間、自分の意思を御父の意思と一つにするならば、主は「〔わたしたち〕を〔主〕の手に使われる者として多くの人を救」ってくださいます（アルマ書 17：11）。

考えてみましょう

ルカによる福音書第 8 章の話から考えると、この女性の忍耐の歳月はどのようなものだったのでしょうか。また、イエス・キリストへの彼女の信仰はどのように報いられたのでしょうか。



ウークトドルフ管長は続けてこう言いました。「忍耐とは、変えられないことを受け入れ、勇気と高潔さと信仰をもって立ち向かうことです。『子供が父に従うように、主が〔わたしたち〕に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従』うことです〔モーサヤ 3：19〕。結局、忍耐とは、毎日、毎時間、そうすることがたとえ難しいときでも、『主の戒めを守ることに堅く確固として、揺るぎなくある』ことです〔1 ニーファイ 2：10〕。」¹

その他の聖句

詩篇 40：1；創世 5：22 - 23；2 ペテロ 1：6；アルマ 17：11

注

1. ディーター・F・ウークトドルフ「忍耐し続ける」
『リアホナ』2010年5月号、57 - 58



信仰・家族・扶助

聖文から

聖文はわたしたちに、現世の生活にあつて「苦難の中で忍耐強く」あるべきことを告げています。「〔わたしたちは〕多くの苦難を受けるから」です。そして神は、次のような慰めに満ちた約束を与えています。「それに耐えなさい。見よ、わたしはあなたの生涯の最後まで、あなたとともにいるからである。」（教義と聖約 24：8）

聖書からの以下の話は、忍耐と信仰の模範です。

「ここに、十二年間も長血をわすらつて〔いる〕女がいた。この女が〔キリストの〕み衣のふさにさわったところ、その長血がたちまち止まってしまった。

……イエスは言われた、『だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ。』

女は隠しきれないのを知つて、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったことを、みんなの前で話した。

そこでイエスが女に言われた、『娘よ、あなたの信仰があなたを救つたのです。安心して行きなさい。』（ルカ 8：43 - 48）

この女性のようにわたしたちも、イエス・キリストに心を向けるなら、祝福と慰め、そして癒やししよくざいをも見いだすことができます。主の贖罪により癒やされるのです。

2014年10月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ〔る。〕……
わたし自身の声によろうと、わたしの僕^{しもべ}たちの声によろうと、それは同じである。」
(教義と聖約1:38)

2014年10月の総大会を読み返す際に、このページ(および今後の「大会ノート」)を使って、生ける預言者と使徒、他の教会指導者の最近の教えを学び、生活に取り入れることができます。

教義的な重要点



貧しい人や困っている人の世話をする

「かつて、あるジャーナリストが、カルカットで貧しい人々を助けていたマザーテレサに問いかけました。『統計的に見ると、あなたは何も成し遂げていませんね。』この小柄な驚くべき女性はこう答えました。『わたしの仕事は統計ではなく、愛なのです。』……自分の手の及ぶ人に対してできることを行うならば、神と隣人を愛するという戒めを守ることができると、彼女は言いました。……そのジャーナリストは目が覚めた思いで、キリスト教の精神は統計とはまったく無関係であると結論づけました。……

では、わたしたちはどうすれば

『できる限りのこと』ができるでしょうか。……

……わたしはトーマス・スペンサー・モンソン大管長を称賛します。……わたしが一生忘れないであろう彼の姿は、当時経済的に荒廃した東ドイツから帰る飛行機にスリッパ履きで搭乗した彼の姿です。彼は予備のスーツと着替えのシャツだけでなく、自分が履いていた靴をも貧しい人に与えたのです。」

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド長老
「わたしたちは皆、物乞いではないだろうか」
『リアホナ』2014年11月号, 40, 42

預言者の約束



天の祝福

「〔苦難の〕ときに、こう思うかもしれません。『神の戒めは本当に全部従う必要があるのかしら。』

その問いに対するわたし

の答えは簡単です。

神はわたしたちの知らない、理解を超えた事柄を御存じであるとわたしは思います。天の御父は永遠の御方であり、わたしたちと比較にならないほど偉大な経験と知恵と英知を備えておられます〔イザヤ55:9参照〕。……

わたしたちの試練となっているのは、神は祝福を天の大きな雲の中に閉じ込めていて、御自分が定めた厳しいおきてに従わない限りその祝福を下さらないのだと想像していることだと思います。しかし、戒めとはまったくそのようなものではありません。実際には、天の御父は絶えず祝福を注いでおられるのです。その祝福をまるで傘のように遮っているのは、わたしたちの恐れや疑いや罪なのです。

神の戒めは、その傘を閉じて、絶えず注いでいる天の祝福を受けなさいという、愛に満ちた教えであり神聖な助けなのです。」

大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長
「喜んで福音に生きる」
『リアホナ』2014年11月号, 121-22

空欄を埋めましょう

1. 「大小にかかわらず、回復された福音の精神と相いれない間違った選択を _____ と、必要な祝福や守りを失い……ます。」(クエンティン・L・クック「賢明に選ぶ」48)
2. 「世の標準から見れば、預言者に従うのは不人気だったり、不適切だったり、あるいは社会的に受け入れられ

ないことだったりするかもしれませんが。しかし、預言者に従うことは常に _____ のです。」(キャロル・F・マッコスキー「預言者の言葉に従って生活する」78)

3. 「主の標準を社会での不適切な行いのレベルにまで下げること、それは _____ です。」(リン・G・ロビンズ長老「どちらを向いていますか」10)

4. 「絶対的な _____ をますます軽蔑し、否定する世の中にあっても、絶対的な _____ は存在します。将来、『あらゆるものがひざをかがめ、また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰する』日が来るでしょう(ピリピ2:10-11)。(デビッド・A・ベドナー「きてごらんなさい」110)

家庭で活用できる手段

「それぞれ的手段を自分がどのくらい活用しているかをよく考え、さらに有効に活用するにはどうしたらよいか分かるように

主に導きを求めてください。」——リチャード・G・スコット長老「信仰を行使することを最優先とする」93

1. 祈り
2. 聖文研究
3. 家庭の夕べ
4. 神殿参入



総大会の説教を読んだり、見たり、聴いたりするには、lds.org/general-conference?lang=jpn にアクセスしてください。

難しい問題について話し合う

臨床心理士，LDS ファミリーサービス
シェリー・リン・クラーク

子供が難しい問題に直面しているとき、彼らとの結びつきが強くなるような話し方をすることが大切です。

わたしたちは親として、難しい問題や試練が子供の成長にとって価値があることを理解していますが、それでも子供が苦しむ姿を見るのはつらいものです。しかし、子供のそのような苦悩は、家庭の中に愛ある環境を育むときに子供としっかりした関係を築くチャンスとなり得るのです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008 年）は、そのような家庭環境を作ることにに関して次のように両親を励ましています。「もっと雄弁に語れるとよいのですが、わたしの願いは子供を救うことです。あまりにも多くの子供たちが苦痛と恐れ、孤独、失意の中を歩んでいます。子供には日の光が必要です。幸福が必要です。愛と養いが必要です。」¹

例を挙げると、いじめ、悪い言葉遣い、学校での不正行為、同性に対する興味、摂食障がい、うつ病、自殺願望など、子供が直面する可能性のある難しい問題が数多くあります。末日聖徒の親として、わたしたちは「子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って」いることを知っています。² しかし、子供自身の生活に

ついてであっても、友達の生活についてであっても、子供が難しい問題に苦しんでいるとき、この大切な責任をどのように果たせばよいのでしょうか。ここで、幾つかの提案をします。

会話を促す質問をする。このように質問してもよいでしょう。「何かに悩んでいるようだね。それについて何か話せることはないか？」この質問は、子供が悩んでいることに気づいたことを伝えるだけでなく、子供が話してもよいと思う範囲で打ち明けられるように水を向けるものです。

子供が悩んでいる問題を打ち明けたあとに、こう答えてもよいでしょう。「ありがとう。話してくれて。わたしを信頼してそのことを教えてくれたんだよね。あなたがどう感じているか分かるよ。どうしたら力になれるか？」

このような愛ある受け答えは、さらに会話を続けやすくします。大切なのは、子供があなたの誠意を理解していることです。抱き締めたり、愛情のこもったまなざしを注いだりすることも、偽りのない、心からの関心を表すのに役立ちます。

理解するために耳を傾ける。十二使

徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はこう言っています。「耳を傾けなければならないときは、相手が話を聞いてほしいと思っているときです。……子供は生来、自分の経験を話したがるものです。……子供が悩みを打ち明けたとき、衝撃的な話を聞かされても自分自身が平静を失わずに心を開いて耳を傾けることができるでしょうか。言葉を遮ったり、性急な判断を下して対話の道を閉ざしたりせずに、子供の話を聞けるでしょうか。親に信頼され、自分の気持ちが理解されているという安心感があるこそ、打ち解けた話ができます。大人は、受け入れたくない事実を聞かされたとしても、事実は事実として受け入れなければならないかもしれません。」³

相手を尊重する。聖文には、愛と尊重を作り出す方法について優れた指





針が示されています。教義と聖約121章41-42節の中で、鍵となる言葉に着目してください。説得（強制ではなく）、寛容（すぐ強いて従わせるのではなく、不寛容でもなく）、温厚（大声を出さず、攻撃的、感情的なコミュニケーションではなく）、柔和（誇らず、横柄な受け答えをしない）、優しさ（冷酷に操るのではなく）、偽りのない愛（心からの誠実な愛の表現）。わたしたちの改心を深めることで、「人と接するときには、忍耐、親

切、寛容さが増し、人の役に立ちたいという気持ちになるのです。」⁴

批判を避ける。末日聖徒の親は、救い主の模範に倣って生活しようと努力しています。主の接し方には、愛と共感と心からの関心にあふれていました。人々が重大な罪を犯したときでさえ、主は悔い改めを勧めましたが、非難することはされませんでした（ヨハネ8:3-11参照）。子供の自尊心を傷つけ、自信を失わせるような批判を避け、むしろ、それぞれの子供

の良い所を見つけて強調するとよいでしょう。

怒りを制する。「怒りをおそくする者は勇士にまさり」（箴言16:32）、「争いの心〔は〕争いの父である悪魔につく……。悪魔は……怒って争うように人々の心をあおり立て」ます。（3ニーファイ11:29）。怒りは御霊を退け、壊れやすい親子関係を損ないかねません。総大会でヒンクレイ大管長はこう言いました。「わたしは心からお願ひします。怒りを制し、ほほえみ

をたたえてください。ほほえみは怒りを和らげます。愛と平和、感謝と敬意の言葉を語ってください。そうすれば、皆さんの人生は悔いのないものとなり、夫婦関係や家族関係が守られるでしょう。もっと幸福に[なる]ことでしょう。』⁵

結びつきを強める。この提案は全て役に立つものですが、子供との難しい話し合いのただ中で思い出すことができなければ、次のように自問するだけでもよいでしょう。「この状況でどのようにしたら子供との結びつきを強められるだろうか。」その後、話に耳を傾けて、受けた靈感に従ってください。

努力し続ける。親業は時として非常に難しい務めですが、それでも努力し続けるなら良い結果を得ることができます。ハワード・W・ハンター大管長(1907-1995年)はこのように励ましています。「立派な親とは、子供を

愛し、犠牲を払い、世話をし、教え、子供の必要を満たす人のことです。これらのことを全て行っても、子供が不従順でこの世のものを追求め、手に負えないようなことがあるかもしれません。それでも、皆さんは立派な親であると言えます。』⁶ ■

筆者は南アフリカ在住です。

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「子供たちに救いを」『リアホナ』1995年1月号、62参照
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129
3. ラッセル・M・ネルソン「耳を傾けて学ぶ」『聖徒の道』1991年7月号、22参照
4. マービン・J・アシュトン「舌は鋭い剣となる」『聖徒の道』1992年7月号、22参照
5. ゴードン・B・ヒンクレー「怒りをおそくする」『リアホナ』2007年11月号、66
6. ジェームス・E・ファウスト「ハワード・W・ハンター大管長——空を飛ぶ鷲のように」『聖徒の道』1994年9月号、17参照

10代の子供と話をする

難しい問題について話し合うのは、本当に容易ではありません。ましてや、親に頼らないで自我を確立しようと奮闘している10代の子供とそのような話をするのはもっと大変です。思春期の若者は、勉強、感情の起伏、交友関係などの多くのプレッシャーの中で生きています。彼らの信仰や価値観は、時として友達や仲間から疑問視されます。この発達段階で親と子の関係はもろくなりやすく、10代の若者がしまいには混乱、孤独感、いらいら、不安、無力感、疎外感、あるいは失望さえ抱いてしまうことは珍しくありません。

発達に伴うこれらの難しい問題を理解し、心配りをする親は、10代の子供が一番親を必要としているときにより良く助けることができますのです。



祖父，御父

教会パブリッシングサービス
アロン・L・ウェスト

3,000人の宣教師が大きなホールに集まっている場面を思い浮かべてください。その中の2,999人は興奮しながら話していて、ホールの一か所を注目しています。爪先で立っている人もいれば、爪先立ちをする人越しに一目見ようとジャンプする人もいます。折り畳み椅子の上に立っている人もいます。一人の宣教師は、折り畳み椅子に座り、膝に肘を突き、こぶしを握って頭を下げています。

この情景は実際に起ったとおりではないかもしれませんが、わたしが記憶していることを表しています。確かにそう感じていました。その一人の宣教師とはわたしだったのです。

この場面を想像している皆さんは、わたしが孤独や悲しみを感じていたと思うかもしれません。実際のところ、わたしは人生でも指折りの幸せな瞬間を味わっていました。以来、その瞬間を何回思い出してもうれしくなります。

そのとき、わたしはユタ州プロボの宣教師訓練センター（MTC）にいて、エクアドル・キト伝道部で専任宣教師として奉仕する準備をしていました。当時、大管長会第一顧問であったゴー



ドン・B・ヒンクレ管長（1910 - 2008年）がMTCの全宣教師に向けて話をしにきました。

どよめきが起こったのは、集会の後でした。宣教師がホールの出口から出て行かないことに気づいたわたしは、何が起きているのか一人の長老に尋ねました。

彼は、「ヒンクレ管長の孫がMTCにいるんだ。それでたった今、ヒンクレ管長が演壇から降りて彼を抱き締めたんだよ!」と答えました。

その長老はそう説明すると、もっとよく見ようと椅子に上がって興奮ぞみに言いました。「わあ、ヒンクレ管長がおじいさんだなんてすごいよね。」

わたしはヒンクレ管長を愛し、尊敬していましたし、その日のヒンクレ管長のメッセージに鼓舞されていました。しかしその瞬間、ある思いが生じて、わたしは椅子の上に立つのではなく、椅子に腰を下ろしました。高揚した熱気の中で、わたしは静かに座り、こう思いました。「ヒンクレ管長がおじいさんだったら確かにすごいただろうな。でも、ヒンクレ管長であっても、うちのフェルトおじいさんやウエストおじいさんと代わってほしいとは思わないよ。」わたしは頭を上げ、自分の受け継ぎや自分の家族を思いながら温かい感謝の気持ちに包まれました。

すると、最初の思いよりさらに強い思いが浮かびました。「それに、ほくは神の息子なんだ。」歯科医や工場管理者の孫であることは、預言者の孫であることと同じすばらしい価値があることを知っています。なぜでしょうか。わたしも預言者の孫も、同じ天の御父の子供だからです。

その後、他の2,999人の宣教師は大きなホールの出口に向かって歩いて行きました。わたしは、数分前よりも主に仕える準備がさらに整った状態で、彼らと一緒にホールを出たのでした。■

全ての試練は さらに大いなる信仰をもたらす

ジョルジャ・ムルジア

父が事故で死亡したことを知ったとき、7歳のわたしは奇跡が起こるように祈りました。

子 供の頃、一日の中で特に好きだったことの一つは、仕事を終えた父の帰りを待つことでした。窓から外を眺めて父が帰ってくる姿を見つけては、家に着くまで歩数を数え、父を出迎える喜びの瞬間を楽しみにしていたものです。そのような気持ちを味わえなくなるとは夢にも思いませんでした。

わたしが7歳だったある日のこと、父ではなく、顔を曇らせた別の男の人が玄関に来て、父が事故で亡くなったことを伝えました。

その日、わたしは黙ったままでした。4歳の弟とまだ若いのに一人になってしまった母を見ていましたが、わたしは泣きませんでした。その知らせが信じられなくて、窓の所に行って通り

をじっと見詰めました。すると、わたしの肩に耐えられない重圧が掛かってくるのを感じました。それは、普通に息ができないほどの重苦しさ、押しつぶされそうな重圧でした。

父が亡くなってから間もなく、夕日が陰りゆく時間に、わたしは一人で自分の部屋に行き、これまで教えられてきたように、天の御父に祈りました。抱き締めるだけでいいので、愛する父にもう一度会わせてくださいと御父に嘆願しました。心の中で、天の御父がその奇跡を起こすことができになると確信していました。

その日、父に会うことも、父を抱き締めることもかないませんでした。それ以上の祝福が与えられました。救い主の手がわたしの肩に置かれたように感じたのです。わたしの胸を圧迫していた重荷を主が取り去ってくださったとき、本当に主がそこにおられるかのように感じました。

20年以上たった現在まで、あの安らぎを失ったことはありません。悲しいときもありましたが、父を失ったことでむなしさを感じたことは一度もありませんでした。振り返ってみると、御



救い主は癒やし強めてくださいます

主は無限にして永遠の犠牲をささげられたので(アルマ 34:14 参照)、わたしたちの気持ちを完全に理解し、憐れみの腕を伸べることがおできになります。主は手を差し伸べ、触れ、助け、癒やし、強め、わたしたちが自分でなれる以上の者にしてください、自分の力では決してできないことをできるようにしてください。……

人は皆生活の中で異なる重荷を負っていますが、重荷は聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みに頼るよう促してくれます(2 ニーファイ 2:8 参照)。容易に重荷に耐えられるように救い主が助けくださることを証し、約束します(モーサヤ 24:15 参照)。」

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老

「容易に重荷に耐えられるように」『リアホナ』2014年5月号, 89-90



20年以上たった現在まで、あの安らぎを失ったことはありません。御霊は何度もわたしを慰め、助け、道を示してくださいました。

たま
霊が何度もわたしを慰め、助け、救い主の尊い歩みに従う道を示してくださいました。あの最初の試練のおかげで、生活の中で主の存在を感じることができ、日々の試練を永遠の見地から見られるようになりました。目には見えなくても、救い主の手が触れるのを感じられるのは、生活に福音があるためであることを知っています。

わたしは永遠の結婚をして、夫との間に3人の幼い娘がいます。娘たちは我が家で天の喜びを垣間見させてくれます。娘たちを見るとき、この子たちが人生で経験する全ての悲しみ、試練、困難な問題がさらに大いなる信仰、新たな証、すばらしい奇跡あかしをもたらすという知識と平安があることに

喜びを感じています。わたしと夫にできる以上のことが娘たちに必要なとき、かつてのわたしと同じように、娘

たちが主から守りと慰めと救いを得られることを心からうれしく思います。■
筆者はイタリア、サルデニア在住です。

試練から学ぶ

試練の中にあるときに力と助けを求めて祈ることが大切であると同時に、試練から学べるように祈ることも大切です。生活の中で主の深い憐れみと恵みに気づく「見る目と聞く耳」(申命 29:4 参照)を持てるように祈ることができます(エテル 6:12 参照)。

人生の困難な時期に学んだ教訓や天の御父の愛を実感した経験を幾つか日記に書くこともできます。





十二使徒定員会
ダリン・H・
オークス長老

神の証人になる

わたしたち末日聖徒は「地の塩」として、
自らの信じる宗教に従って生活することによって、
また自らが神の証人であることを
表明することによって、
塩気を保たなければなりません。

わ たしたちは、多くの人が神の存在や神の戒めの大切さを否定する世の中に住んでいます。皆さんが神を証する務めをさらに効果的に果たし、真理と義のために行動するうえで、わたしの話が助けとなるように願っています。

I.

信仰箇条の最初の3条から話を始めたいと思います。

「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」

「わたしたちは、人は自分の罪のゆえに罰せられ、アダムの背きのゆえには罰せられないことを信じる。」

「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」(信仰箇条1:1-3)

モルモン書の偉大な預言者は、これと同じ真理を教えています。

「神を信じなさい。神がましますことと、神が天と地の万物を創造されたことを信じなさい。神はすべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持っておられることを信じなさい。さらに、人は主が理解される事柄すべては理解しないということ

を信じなさい。
さらにあなたがたは、罪を悔い改めてその罪を捨て、神の御前にへりくだらなければならぬことを信じなさい。そして、神があなたがたを赦して下さるように真心から求めなさい。」(モーサヤ4:9-10)

これとは対照的に、今日、多くの人が神の存在を否定したり疑ったりしています。そして、言動に関する規範はどれも人が作ったものであり、思うままに受け入れたり、拒んだりできると主張しています。

わたしはなぜ、神の存在や、人の行いを律する善悪が確実に存在することなどの基本的な真理について話すのでしょうか。わたしたちが教えられることで時として最も必要なのは、当たり前であると考えがちな事柄です。わたしたちは全ての人が理解していると思い込んで、単純で基本的な真理に注意を払わないことがあります。しかし、実際はそうではありません。わたしたちは、自分たちの信仰の基となっている基本的な真理を強調する必要があります。詰まるところ、これらの真理には、神が実在すること、真理が永遠に存在すること、神の教えと戒めによって定められる善悪が永遠に存在することが含まれます。

II.

神を否定すること、すなわちルネサンス時代に始まった、人間社会における神の役割を軽視することが、今日の社会に蔓延^{まんえん}しています。人の理論を礼賛することが、良い影響と悪い影響を及ぼしてきました。科学の進歩によって、わたしたちの生活は多くの点で改善されました。しかし、神の代わりに科学を信じる人々によって善悪の究極的なよりどころである神の権威が否定されてきたことで、多くの信仰深い人々は次の疑問を呈しています。「道徳上の判断をする際、自由主義的な伝統を持つ優れた哲学者の考え〔あるいは連邦最高裁判所の下級裁判所の決定さえも〕が、……神の御心^{みこころ}よりも適切とされるのはなぜなのだろうか。」¹

人の理論を用いて生活における神の影響力を不要にした人々は、その過程で自分自身を弱め、文明社会の価値を引き下げてきたのです。

わたしは知識を得るための方法が二つあることを知り感謝しています。その二つとは、科学的な方法と霊的な方法であり、後者は神を信じる信仰に始まり、聖文、靈感による教え、そして個人の啓示に頼るという方法です。この二つの異なる方法によって得る知識の間に最終的な矛盾はありません。それは、全能の永遠の御父である神は、全ての真理を御存じで、二つの方法によって学ぶよう勧められるからです。

末の日に関する預言は、靈感によって与えられた真理やそれに基づく行動に対して大きな反対があることを告げています。その預言の幾つかは反キリストに関するもので、他の預言では大きな忌まわしい教会について述べています。

反キリスト

使徒ヨハネは、「父と御子とを否定する」人を表すために、反キリストという言葉を使用しました(1ヨハネ2:22)。今日、神の存在を否定する人は、無神論者と呼ばれています。無神論者の中には、証明できない物事を信じる人の信仰をあざ笑う人もいますが、たとえ攻撃的な態度で神の存在を否定しても、神が存在しないことを立証できないのです。

コリホルという名の男に関するモルモン書の記述のように、わたしたちは神を否定する人々に対して備えができています。現代の最も無神論的な書物に見られるような言葉を使ったことで、2回「反キリスト」と呼ばれたコリホル(アルマ30:6,12)は次のように教えました。

「あなたがたはまだ見ていない物事を知ることはできない。だから、将来キリストが現れるということを前もって知ることにはできないのである。

あなたがたは将来を見通して、自分たちの罪が赦されるのが分かると言う。しかし見よ、それは精神がおかしくなっている結果である。このような精神の錯乱は、実際にはないことを信じるように惑わす、あなたがたの先祖の言い伝えのために生じたものである。」(アルマ30:15-16)

コリホルはさらに、「人々の罪のために行われる贖罪^{しよくざい}などあり得ない」と断言しました。罪という概念を否定し、救い主を拒絶することで行き着く先を説明するコリホルの言葉は、現代における多くの人の信念に驚くほどよく似ています。「人は皆、この世の生涯を善く暮らすも悪く暮らすも、その人の対処の仕方次第であるから、人は皆自分の素質に応じて栄え、自分の力に応じて勝利を得る……、また人がすることはどんなことも決して罪にならない。」(アルマ30:17。強調付加)

道徳的相対主義

今日、コリホルの人生観は道徳的相対主義と呼ばれています。二人の評論家はその人生観を次のように説明しています。「道徳の問題に関して言えば、例外のない客観的な正解や間違いというものはなく、分別に適切、不適切もなく、いつでも、どこでも、誰にでも適用できる道徳的な判断をするための、妥当な、あるいは道理に合った方法というものはない。」²

以下は、人気のあるメディアにおいて、あるいは仲間から圧力を受けたときに、多くの人が持つ考え方です。「古い



ヒューマニズムは、
人間を
至高者である神に仕立て、
教育を受けた人間の
思考によって
あらゆる真実、善、美が
定められるように
している。

ルールを破って自由になろう。好きなことをしよう。世の法律や世間の非難によって課せられること以外に犯罪者が負うべき懲罰はない。」そのような考えの裏には、神は存在しないという前提、あるいは実在しても、現代を生きるわたしたちに当てはまる戒めを与えてはおられないという前提があるのです。

世俗的ヒューマニズム

高等教育の世界では、証明できない神を拒否し、善と悪があることを否定する考え方が最も強い影響力を持っています。世俗的ヒューマニズムは、世俗主義との強い一体感があつたためにおそらくそのように呼ばれたヒューマニズムの一種ですが、意図的にせよ、そうでないにせよ、多くの単科大学や総合大学で教えられる授業に組み込まれています。

信仰を持つ人が、さまざまな人文主義哲学に対して不愉快に思う部分は、神の存在を否定し、神の戒めに基づいた絶対的な道德基準をも否定している点です。例えば、1973年の

ヒューマニスト宣言は、「昔ながらの道德律」と「人間の必要や経験よりも啓示、神、儀式、信条に重きを置く伝統的な教義的、権威主義的宗教」を拒否しました。さらにこう断言しています。「我々は、人類に対する……神の目的なるものを見いだすことはできない。……人が現在どうあって、将来どうあるかについての責任は人間にある。神が人を救うことはない。人は自らを救わなければならない。」³

もちろん、ヒューマニストと呼ばれる人文主義の信奉者は、多くの実際的な貢献をしてきました。民主主義、人権、教育、物質的進歩を支えてきたのです。これらの発展によって信仰を持つ人が排除されることさえなければ、ヒューマニストに対してわたしたちが懸念することは、彼らが神の權威と神を信じることの価値を否定している点です。

かつてブリガム・ヤング大学で哲学を教えていたチョウンシー・リドル教授はこう書き



ニーファイは
啓示により、
「神の小羊の教会」と
「悪魔の教会」の
二つしか教会はない
と教えられました。

ています。「ヒューマンイズムは、人間を至高者である神に仕立て、教育を受けた人間の思考によってあらゆる真実、善、美が定められるようにしている。」さらに「作家、出版業者、学者、メディア関係者のほとんどがヒューマニストであるため」、ヒューマンイズムが「現代社会で好評を博している」ことに注意を喚起しています。⁴

神の存在を否定したり、疑ったりする人の多くは、おそらく道徳的相対主義の哲学を認めないでしょう。神への信仰に基づかない絶対的な標準を説明するのが難しいことであっても、自分自身には善悪を判断する幾つかの外的標準があると考えます。「宗教による昔からの道徳律」を公に拒み、「科学的な裏付けを取るための実験」⁵に頼ることを公言する世俗的ヒューマニストは、「神に頼らずにこの世の中で生きている者たち」に関するモルモン書の預言を成就しているように思えます（モーサヤ 27：31）。

大きな忌まわしい教会とその他の「教会」

モルモン書には、「悪魔が創設者である全地の大きな忌まわしい教会」に関する預言が記されています（1ニーファイ 14：17）。この

「教会」は、「すべての国民、部族、国語の民、民族の中にあつて全地を支配」すると預言されています（1ニーファイ 14：11）。「ほかのあらゆる教会にも増して忌まわしい」とされるこの教会は、「世の誉れを得るために」行動し、「神の聖徒たちを……囚われの身に陥れる」とも記されています（1ニーファイ 13：5、9）。

キリスト教徒であってもそうでなくても、かつて地上の全ての国を「支配」した宗派や、神の全ての聖徒を「囚われの身に陥れる」ほどの力を持つ宗派はないため、この大きな忌まわしい教会は、わたしたちが今日この言葉から解釈する単一の「教会」というより、さらに広く普及しているものに違いありません。つまり、神への信仰を否定するあらゆる哲学や組織なのでしょう。そして、この「教会」が聖徒を陥れようとする「囚われの身」の状態とは、身体的な拘束というよりもむしろ偽りの考えによる束縛なのです。

ニーファイは啓示により、「神の小羊の教会」と「悪魔の教会」の二つしか教会はないと告げられました（1ニーファイ 14：10、13：4－6も参照）。この記述では、神を信じ、自分の理解に基づいて最善を尽くして神に仕え

ようと努める人々と、神の存在を否定する人々を対比させています(1ニーファイ14:10 参照)。

モルモン書の他の教えも、「教会」という言葉を使って神に対する信仰と不信仰を表しています。ニーファイ第二書の後半の章では、末の日に異邦人が「多くの教会」を設け、それらが「神の力と奇跡を侮り、自分の知恵と学識を自賛して、利益を求め」と預言されています(2ニーファイ26:20)。「主のために設けたのではない」教会について述べられており(2ニーファイ28:3)、その教会は「自分の学識で教え」、「神の力を否定」とあります(2ニーファイ28:4,5)。彼らは「人々に言う。『わたしたちに耳を傾け、わたしたちの訓戒を聞きなさい。見よ、今日、神は存在しないからである。』」(2ニーファイ28:5)

救い主がニーファイ人の中で教え導かれたとき、「わたしの福音の上に築かれておらず、人の業の上に、あるいは悪魔の業の上に築かれて」いる教会に気をつけるように言われました(3ニーファイ27:11。1ニーファイ8:26-33;11:35;12:18の「大きく広々とした建物」に関する教えも参照)。この警告は、宗教組織に限定されるものではありません。現代の状況において、これには幾多の世俗の哲学や活動が含まれます。

III.

神を信じ、神の戒めによって善悪が存在することを信じる人の多くは、教育機関やメディアを含め、多くの組織がこの世の教えを説き、神を否定していることから、軽蔑と罵りを受けています。預言されたこの困難に立ち向かうのは神を畏れる人たちです。わたしたちと同じように神を信じる信仰を持ち、神の戒めによって善悪が存在すると信じる、その人数が減りつつある人たちです。これは、救い主の時代の状況を再現しているにすぎません。

わたしたちは「四方から患難を受けても……行き詰まりません(2コリント4:8)。霊的な成長に「すべての事物には反対のものが」必要であることを知っています(2ニーファイ2:11)。主が「御自分の民を懲らしめるのを、御心にかなうことと見ておられる。まことに、主は民の忍耐と信仰を試される」ことも知っています(モーサヤ23:21)。しかし、聖文は、神が御自身を信頼する者を救い出してくださることも教えています(サムエル上17:37,45-46;詩篇

34:22;箴言3:5-6;アルマ36:27;38:5 参照)。

これから、現在の状況に対してわたしたちにできることを3つ提案します。まず一番簡単なことから始めます。3つとも、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になる」べきであるという偉大なモルモン書の教えに準じています(モーサヤ18:9)。

神の名と影響力を尊ぶ

わたしたちは次のように教えられています。「キリストを信じ……キリストを否定しない[。]」(2ニーファイ25:29)「あらゆる思いの中で〔キリスト〕を仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」(教義と聖約6:36)「キリストのことを話し」、「キリストのことを喜び」、「キリストのことを説教[する]。」(2ニーファイ25:26) これを実践できる二つの方法は、個人の祈りと、記念日や見舞いに贈るグリーティングカードです。

わたしたちは個人と家族の祈りにおいて、創造主である神について、また、神の戒めによって善悪が定められていることについて、わたしたちや隣人、指導者がよく理解できるように願い求める必要があります。あらゆる場所に住む神の子供たちのためにこれを実践すべきです。

わたしたちは、個人的なコミュニケーションにおいて宗教に触れることを敬遠する現代の風潮にも異議を唱えるべきです。近年、クリスマスカードやお悔やみ状に宗教的な象徴や敬虔な言葉けいけんを入れることがほとんどなくなりました。このような類いのコミュニケーション手段を選ぶとき、個人的な通信文から神聖な事柄を取り除いてはなりません。わたしたちは信仰を持つ者として、会話や生活、文化において、神とキリストの名と影響力を表し続ける義務があります。

人前で神の祝福を認める

公の場で神の祝福を認める行為を支持しましょう。そうするのは、わたしたちが公の場で語るときに、信仰に触れたり、神と神の祝福について記述したりすることが少なくなっている事態を打開するためです。例えば、現在のアメリカ合衆国の政府高官の公文書と修辞法を、建国後最初の2世紀における同様の文書や言葉と対比してみてください。そうすると、アメリカ合衆国の建国と維持に関して、神への言及や宗教の影響についての記述を故意に削除していることが分かるでしょう。

このことについてわたしたちに何ができるでしょうか。ま

ず、家庭や教会で教えるときに、わたしたちの生活や国に主の祝福があることを認めることで、正しい模範を示せるでしょう。このことを「賢明に秩序正しく」行うためには（モーサヤ4：27）、自分たちの国がユダヤ教徒、イスラム教徒などキリスト教でない教派の市民、そして無神論者から恩恵を受けていることを否定していると思われぬようにしなければなりません。しかし、例えば、アメリカ合衆国がおもにクリスチャンであった人々や指導者によって建国され、彼らの信仰の原則が国の憲法、法律、文化に具体的に表れている事実についても誠実に語るべきです。⁶

ハーバードビジネススクールの教授で、以前地域七十人を務めていたクレイトン・クリステンセン兄弟は、最近執筆したエッセーで、宗教は民主主義と繁栄の両方の基盤であると主張しています。クリステンセン兄弟によれば、民主主義と資本主義はどちらも、法的強制力のない事柄に大多数の人が従うことが前提となっていて、この前提条件は「人間の平等、他人の財産の尊重、個人の正直と誠実さの重要性」などの基本原則を教える宗教に依存しているのです。神を信じる宗教に取って代わろうとする世俗主義は、クリステンセン兄弟の言う「強制できない事柄への広範囲な従順という不可欠な基盤」を提供する能力とプログラムを持っていません。⁷

自由な宗教活動のために声を上げる

自由な宗教活動のために声を上げましょう。これには、異なる宗教を信じる人々の協力が必要なため、さらに難しい問題です。政府によって自由な宗教活動が保障されている国では、その保障が守られるよう官僚に働き掛けるべきです。現在懸念される事例を二つだけ強調します。

最初は公の場での祈りについてです。神に対する概念がどのようなもので、どのような方法で神に話し掛けるとしても、祈りは人が神に話し掛けるための手段です。祈りの内容は祈る人の信仰によって異なりますが、内容がどのようなものであっても、祈りが公の場でささげられるとき、その祈りはそこに集まった人が共通して抱く神への信頼と神に対する敬虔さの表れ、および象徴として大切なのです。これが、立法機関の会合や協議会の開会、法廷証言、任官式に先立って宣誓としてささげられる祈りの本質です。祈るように指名された人の神に対する概念がどのようなものであっても、また祈る人の宗派や祈りの言語が何であっても、賢明かつ寛容

な態度で行う祈りの中に、神に対するわたしたちの信仰が見えるように願っています。これは声を上げる価値のあることです。

第2に、宗教活動の自由は「礼拝の自由」に限られると言う官僚や公共政策提唱者に異を唱えるように注意を喚起する必要があります。例えば、アメリカ合衆国で「自由な活動」を保障するとは、一般国民の健康、安全、福利を守るために必要である合法的な政府の力を前提として、教会、会堂、モスクを含む私的な環境から外に出て、それぞれの信仰に基づいて行動する権利を守ることを意味します。自由な活動とは、市民が公共政策に関する議論や、市民や議員としての投票において、信念に基づいて行動する権利が守られることも含まれるに違いないのです。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が、全国のキリスト教指導者の聴衆に対する力強いスピーチで話したように、わたしたち末日聖徒は、「現代の社会問題に関し、わたしたち全てがキリスト教徒の良心に基づいて堂々と意見を述べることができる」ように「宗教の自由を保障する努力[を]、ともに行っていきたく強く願って」います。⁸

神への信仰や神の祝福の存在を認めるという伝統的な文化を守るために一つとなって働く宗教指導者と神を畏れる人々との協力関係を支援することが必要です。

IV.

最後に、各地で生活している信仰ある全ての人にお勧めします。わたしたちには、神の証人になるという厳粛な宗教上の務めがあります。自らの宗教を自由に実践する権利を主張することにおいて、また、国を確立し、維持し、繁栄させるうえで宗教が果たす重要な役割を尊重することにおいて一つとなり、自分たちの宗教上の信仰をはっきりと主張するべきです。

クリスチャンの皆さん、以下の使徒ヨハネの厳粛な教えを思い出してください。

「イエスを告白しない霊は、すべて神から出ているものではない。これは、反キリストの霊である。あなたがたは、それが来るとかねて聞いていたが、今やすでに世にきている。」（1ヨハネ4：3）

神の証人として声を上げないなら、その結果は、塩気を失った塩に関する救い主の教えのとおりです。ちょうどわた



神への信仰や
 神の祝福の存在を
 認めるという
 伝統的な文化を
 守るために
 一つとなって働く
 宗教指導者と
 神を畏れる人々との
 協力関係を
 支援することが
 必要です。

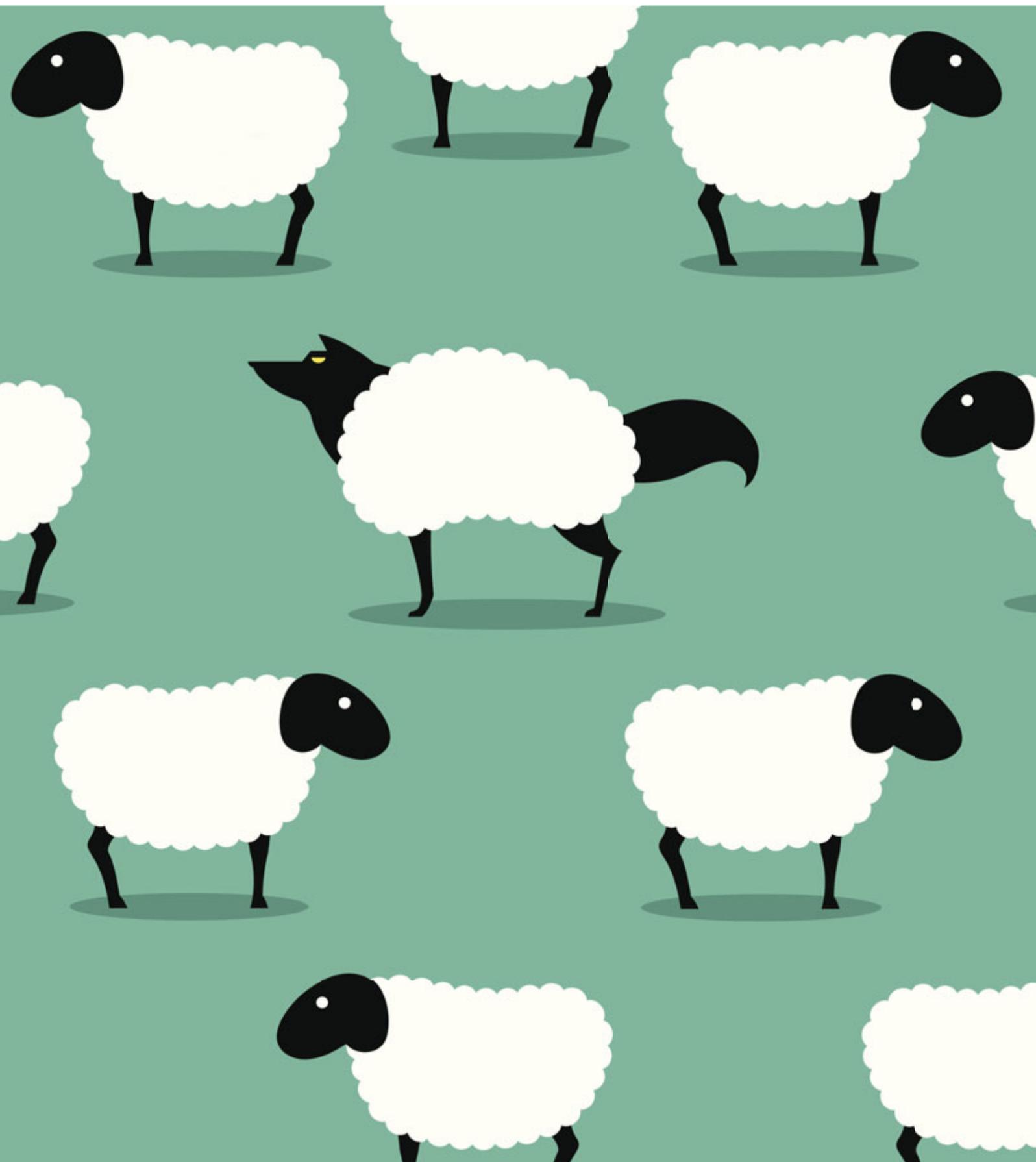
したちがこの世の価値観によって薄められるように、塩が他の物質と混ざると、全体に対する独特の影響力を失ってしまいます。救い主が教えられたように、「もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけ」なのです(マタイ5:13)。

わたしたち末日聖徒は「地の塩」として(マタイ5:13)、自らの信じる宗教に従って生活することによって、また神の証人であることを表明することによって、塩気を保たなければなりません。そのようにするとき、真理と義の最終的な勝利を喜ぶ人々と手を携え、「すべてのひざは、……かがみ、すべての舌は、神にさんびをささげ」(ローマ14:11)、そしてわたしたちが礼拝し仕える主イエス・キリストを賛美するのです。■

2014年2月25日にブリガム・ヤング大学アイダホ校で行われたディボーションの説教「神の証人」(“Witnesses of God”)から。全文(英語)は www2.byui.edu/DevotionalsandSpeeches からご覧いただけます。

注

1. スティーブン・L・カーター, *The Culture of Disbelief: How American Law and Politics Trivialize Religious Devotion* (1993年), 226; 第11章全般参照
2. フランシス・J・ベックウィズとグレゴリー・コークル, *Relativism: Feet Firmly Planted in Mid-Air* (1998年), 12-13
3. ボール・クルツ編, *Humanist Manifestos I and II* (1973年), 14, 15-16
4. チョウンシー・リドル, *Think Independently: How to Think in This World but Not Think with It* (2009年), 120, 121
5. クルツ, *Humanist Manifestos I and II*, 16
6. ジョン・A・ハワード, *Christianity: Lifeblood of America's Free Society, 1620-1945* (2008年), 51 参照
7. クレートン・クリステンセン, “Religion Is the Foundation of Democracy and Prosperity”, mormonperspectives.com/2011/02/08/religion-is-the-foundation-of-democracy-and-prosperity 参照
8. ジェフリー・R・ホランド「キリストの大義のために団結する」『リアホナ』2012年8月号, 26



サタンの背き

サタンは前世での会議で実際にどんなことを提唱したのでしょうか

セミナーおよびインスティテュート
マーク・A・マシューズ

若い頃、ある奇妙な傾向が一部の教会員の中にあることに、わたしは気づくようになりました。皆が認めた規則があって、それに従わないとある結果が生じる場合(教会宗紀や親のしつけ、伝道部の規則、教会運営の学校の行動規範など)、彼らはよく、こう言うのです。「これはサタンの方法ではないのか。人々に義にかなった行いを強制しているのではないか。」

このような反応は最初、わたしにとって驚きでした。主と主の教会が認めている方法が「サタンの計画」だなんて、どうしてそんな考え方ができるのだろうかと思ったのです。しかしそれ以来、サタンの背きと天上での戦いに関するこのような誤った考え方は実際は非常に一般的なもので、今日、ある方法をサタンのやり口のようにだと早急に決めつける場合が他にもあることが分かってきました。残念ながら、このように教義を誤って理解していると、悲惨な結果を招く可能性があります。

例えば、このような誤った理解をしている親は、教会に行くよう子供に勧めることはできないと考えます。深刻な道徳的罪を教会員が正当化できるようになる可能性があります。また、このように誤った理解をしている人は、従順の聖約を守り、その決意を貫くのは何らかの意味で神の計画に反するとまで考えることがあります。しかも皮肉なことに、聖約を守ることは神の救いの計画の中心なのです。

聖文には何と書かれているか

前世でサタンがどんなことを申し出たかについては、それに関する実際の啓示よりも、人々が昔からよく言っていることを基に考えているような人がいます。ですから、聖文そのものに立ち返って、この重要な事柄について主が実際には

どんなことを啓示されてきたのかを調べるとよいのです。聖文の中でサタンが何を申し出たかが書かれているのはまず、モーセの書第4章の最初の数節です。

「主なる神であるわたしは、モーセに語って言った。『あなたがわたしの独り子の名によって命じたあのサタンは、初めからいた者である。彼はわたしの前に来て言った。「御覧ください。わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。わたしはあなたの子となりましょう。そして、わたしは全人類を贖^{あがな}って、一人も失われないようにしましょう。必ずわたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。』

しかし見よ、初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子は、わたしに、「父よ、あなたの御心^{みこころ}が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように」と言った。

あのサタンはわたしに背いて、主なる神であるわたしと与えた、人の選択の自由を損なおうとしたので、またわたしの力を自分に与えるように求めたので、わたしは独り子の力によって彼を投げ落とさせた。

そして、彼はサタン、すなわち、あらゆる偽りの父である悪魔となって、人々を欺き、惑わし、またまことに、わたしの声を聴こうとしないすべての者を自分の意のままにとりこにする者となった。』(モーセ4:1-4)

あらゆる偽りの父

これらの聖句から、一部の教会員が推測するように、競合する別の救いの計画を考えて提示する者を天の御父が募っておられたわけではないことは明らかです。むしろ、上記の聖句に書かれていることが天の御父の計画であり、御父は天上の大会議に集まった御自分の霊の子供たちに、この計



画を提示されたのです。救い主として「初めから〔御父〕が……〔お選びになった〕者である」イエス・キリストは、天の御父の計画が支持されるようにと謙遜に申し出られました。「父よ、あなたの御心〔つまり、救いの計画〕が行われ……ますように」とおっしゃったのです。天の御父の計画を変更して万人に救いを与えるという、受け入れ難い傲慢な案をサタンが提示したのは、そのときです（モーセ4：1参照）。このもくろみをサタンがどのように成し遂げようとしたかを論じる前に、この聖句の中でサタンが「あらゆる偽りの父」と呼ばれていることに注目することが

大切です（モーセ4：4）。サタンは聖文の別の個所で「初めから偽り者であった……者」と呼ばれています（教義と聖約93：25）。サタンが万人の救いという仰々しい案を提唱したとき、霊であったわたしたちは、それが正しいと、あまりにも短絡的に考えてしまいそうになったかもしれません。

サタンの性格や、それまでにサタンがたどってきた軌跡を考え合わせると、サタンが人類最初の詐欺師だったと考えるのが妥当でしょう。自分が提供できないものを売ろうとしたのですから。サタンは、わたしたちの救いのために作られ、救い主イエス・キリストから支持された天の御父の計画に従うのではなく、自分に従えば全ての人に救いを与えることができると主張しました。

サタンの主張は偽りでした。実現するはずがありませんでした。それは、天の御父がすでに用意しておられた完全な計画に匹敵するような実現可能な選択肢ではなく、人々を陥れ欺いてサタンに従わせるために仕組まれた、わなだったのです。結局それは救いの計画ではなく、滅びの計画でした。

選択の自由を損なう

重要なのは、上記の聖句には、サタンがどのようにしてこの偽りの計画を実行しようとしたかがはっきりと書かれてはいないということです。聖句には、「選択の自由を損なおうとした」と書いてあるだけです（モーセ4：3）。大管長会第一顧問だったルーベン・J・クラーク管長（1871－1961年）

は、サタンが行おうとしたおもな事柄を二つ挙げ、どちらも成功するはずがなかったとしています。こう説明しています。「聖典の記述からわたしたちが理解していることによれば、サタンの計画には次のどちらかが必要です。……人を強制によって従わせるか、罪のあるままに救うかです。人の英知を強制することが可能かどうかは疑問ですが、人は罪のあるまま救われることができないことは確かです。」（Conference Report, 1949年10月, 193:『福音の教義 生徒用手引き』, 20で引用）

いずれも成功しないにもかかわらず、今日、サタンの悪あがきと戦略によって

この両方の事柄の例をわたしたちは見えています。例えば、国家権力を掌握しようとする独裁者や、宗教の自由を制限して罪深い行動を社会に認めさせようとする政治活動家たちが用いる強制力と影響力です。主は、「いかなる程度の不義によってでも、人の子らを制御し、支配し、強制しようとしたりする」ことを具体的に非難しておられます（教義と聖約121：37）。

しかしながら力や影響力は、愛を込めて説得し、義にかなって責め、その後適切に愛を示すことによって、義を行うよう励ますために使うこともできると、主は説明しておられます（教義と聖約121：41－43参照）。このことから明らかのように、教会宗紀や親のしつけ、それに、伝道部や教会運営の学校の規則や行動規範を実施したり、義にかなった規則を社会に制定したりすることは全て主から承認されたものであり、「サタンの計画」の一部ではないのです。選択の自由を尊ぶことは、無秩序を受け入れることではありません。

全ての人を救うためにサタンが行おうとした第2の事柄は、『末日聖徒聖書辞典』（LDS Bible Dictionary, 英語）に書かれています。「ルシフェルと彼に従う者たちは、個人の好みや選択の自由、自分の意思による献身とは無関係に、この世に来る全ての者に自動的に救いが与えられるようにしたいと考えた。」（“War in Heaven”の項）言い換えると、サタンは本人が何をしようと、全ての人が救われるようにすると言ったのです。その場合には選択の自由は不要に

なり、損なわれることになります。何を選んでも結果が変わらず、誰にも同じ結果が訪れるとしたら、物事を選ぶ意味はなくなり、選択の自由は損なわれます。

サタンが人を救うために行おうとしたこの方法も、わたしたちが今日よく知っているサタンの悪あがきと戦略に見られます。人は罪深い生活を送っていても救われるとか、罪悪の中に幸福を見いだすことができると、サタンは常に人に約束します。天上の戦いでサタンの意見に「多くの者が……従った」ように（アブラハム 3:28）、この簡単に手に入る救いと、罪深い生活という魅力的なメッセージは、現代の世の中で非常にもはやされています。

これらの例から、サタンのやり口は前世からあまり変わっていないことが分かります。サタンは引き続き人々に偽りを言い、自分に従えば救われて幸せになるなど、人々が喜ぶようなあらゆる言葉を語っています。サタンは引き続き、不義なものの方ややり方を人に強制しようともしています。だからこそ、「この闘いは現世でも続いている。……闘いは今も変わらない。そして、同じ救いが危険にさらされている」のです（LDS Bible Dictionary, “War in Heaven” の項）。

背きの計画

サタンの計画を説明するには、サタンが提唱した危険な理論を基にするのではなく、その計画によってサタンと彼に従う者たちが実際に行うようになったこと、つまり、背いたことを説明するのが一番簡単だろうと思います。サタンは公然と神に背いたという記述が、聖文には繰り返し出てきます。例えば、主はこう言われました。「サタンはわたしに背いて」（モーセ 4:3）、「神の一天使が、御父から愛されて御父の懐におられた独り子に背き、」（D&C 76:25）「悪魔は、『わたしにあなたの誉れを与えてください』と言って、わたしに背いた。」（教義と聖約 29:36）

これらの聖句から明らかなのは、サタンの提唱した案は神の計画に変更を加えようという、悪気のない提案ではなかったということです。それは背きであり、反乱でした。サタンは神をその御座から引きずり下ろして天を乗っ取るという反逆を企てたのです。サタンに従った者たちは天で宣戦を布告し、神の敵となりました。選択の自由は損なわれました。それは、彼らが「偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶ」ことを拒否し、「悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を

選〔んだ〕」からです。「悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めて」います（2 ニーフアイ 2:27）。その結果、「彼は天の衆群の三分の一を、彼らの選択の自由によって〔神〕から背き去らせた」のです（教義と聖約 29:36）。

言い換えれば、サタンの計画は神に対する背きと不従順と見るのが、一番簡単です。これとは対照的に、神は御自分の計画を次のように要約しておられます。「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」（アブラハム 3:25）「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」（信仰箇条 1:3）このように、神の計画が従順と義の計画であるのに対し、サタンの計画は不従順と背きの計画です。

計画を認める

神の計画とサタンの目指すものとの違いが正しく理解できるようになると、サタンに従っている人と、**本当はサタンに従っているのではない人**を、よりはっきりと見分けることができるようになります。そうなれば、義を説き勧めめる人を、本当は神の計画に従っているのに、サタンの計画に従っているなどと非難することはなくなるでしょう。また、今日サタンに本当に従っている人も暴き出されるでしょう。

神とその預言者に反抗する人や神の計画を変えようとする人、義にかなった標準を下げて不道徳な行いを人に無理に受け入れさせようとする人、罪悪は幸福であり、罪の中に救いを見いだすことができると人に信じ込ませようとする人、このような人は皆、サタンの背きの策略を、それぞれ違った意味で推し進めているのです。

わたしたちが「キリストの贖罪により」、「福音の律法と儀式に従うことによって」天の御父の計画に従えますよう願っています。（信仰箇条 1:3）■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

『リアホナ』のこの記事またはその他の記事についてのご意見やご希望がありましたら、lihona@ldschurch.org まで、電子メールでお寄せください。





七十人会長会
ウリセス・
ソアレス長老

鉄の棒につかまる

信仰を働かせ、主の戒めに勤勉に従うならば、正義を選ぶことがもっと容易になるでしょう。

ある知り合いの善良な教会員は、大学生だった頃、土曜日の晩にクラスメートの家で行われるパーティーに招かれました。学生たちに親切な大学教授たちも招かれていました。そのため、感じの良い、安全なパーティーだろうと思いました。

ところが、友人は着いてすぐに、パーティーの雰囲気期待していたものとは違うことに気づきました。学生は飲酒し、たばこを吸い、薬物を使い、家のあちこちで恐ろしいことを行っていました。不安になった友人は立ち去ることにしましたが、パーティー会場は自宅から遠く離れていました。友達の車に乗せてきてもらったので、一人で帰る手段がありません。

そのとき、友人は静かに主に助けを祈り求めました。少しの間考えていると、外に出るべきだと感じました。友人はその気持ちに従い、パーティーが終わるまで家の外にいました。

自宅に帰る車の中で、パーティーの最中にあった恐ろしい出来事について彼の友達が話しました。わたしの友人は、その状況を不快に感じました。彼にとってそれは、聞くに堪えない内容でした。

しかし、翌日教会で聖餐せいさんを取ると、心が穏やかになり、自分が正しい決断をしたことを

確信しました。暗闇の中でも鉄の棒につかまりそれを離さないようにするとはどういうことかが分かったのです。ニーファイが兄たちを教えたときに言ったことの意味がはっきりと分かりました。「だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない……。」(1 ニーファイ 15:24)

この若い男性が、ろうばい狼狽して強さを失い、鉄の棒を離してしまったらどうなっていたか想像してみてください。この決断をはじめとする日々の様々な決断の結果、彼はある若い女性と神殿で結婚し、義にかなった家族を作り、実りある人生を送っています。今も教会で忠実に奉仕し、子供たちの模範になろうと努めています。

生まれながらの人

日々の誘惑に対処するのは簡単ではありません。わたしたちはイエス・キリストの福音に反する環境に身を置いています。道徳が低下する世に生きています。マスメディアと科学技術は、わたしたちの信条とイエス・キリストの福音の価値観に反する、破壊的で身を滅ぼす

行為へと誘います。価値観の異なる友人や、同じ価値観を持ちながらも信仰の弱い人たちは、恥ずべき行いに加わるよう圧力を掛けてきます。さらに、自分自身の中に存在する生まれながらの人にも対処する必要があります。

『聖句ガイド』には、生まれながらの人の定義がこのように書かれています。「聖なる御霊の促しよりも、激情、情欲、欲望、肉欲に影響された選択をする人。このような人は、物質的なことは理解できても、霊的なことは理解できない。……生まれながらの状態を抜け出すには、イエス・キリストの贖罪を通して、再び生まれなければならない。」¹

トーマス・S・モンソン大管長は、あるシンプルな格言をよく引用します。誘惑に心を乱されることなく、正しい方向に進み続けるのに役立つ格言です。「悪いことを行えば正しい人にはなれないし、正しいことを行えば悪い人にはならない。」²

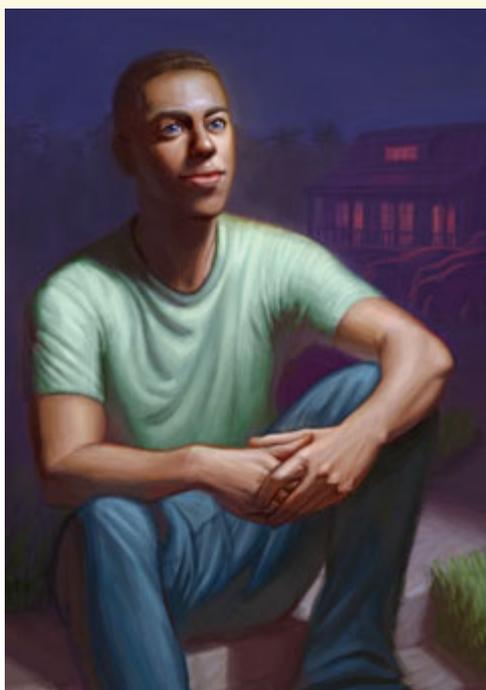
信仰を働かせ、主の戒めに勤勉に従うならば、正義を選ぶことがもっと容易になるでしょう。

キリストの光

預言者モルモンは民にこのように教えました。

「さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。

しかし、悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわきまえることができる。悪魔はこの



友人は、パーティーを抜け出して終わるまで外にいます。暗闇の中でも鉄の棒につかまりそれを離さないようにするのはどういったことが分かったのです。

ように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない。」(モロナイ7:16-17)

天の御父はわたしたちにキリストの光を与えてくださいました。それは、「キリストを通して神から発せられ、万物に命と光を与える神聖なエネルギーや力、影響力」³であり、正しいことと間違っただけを識別する助けとなります。伴侶である聖霊と併せて、この賜物は、ある選択が主の領域に導くものか、それともサタンの領域に至らせるものかを判断する助けとなります。行いが良いとき、わたしたちは神の靈感を受けています。行いが悪いときには、敵の影響を受けているのです。

前述のわたしの友人は、この二つの賜物を活用しました。キリストの光を使って何が正しいかを知り、聖霊の導きにより選ぶべき道を決めたのです。この二つの賜物は、鉄の棒につかまる人たちに与えられます。

悔い改めという賜物

自分が何らかの理由で誘惑に欺かれたり惑わされたりしたために罪を犯してしまったと想像してみてください。どうするべきでしょうか。誘惑に陥り罪を犯したら、神と和解しなければなりません。聖典の中の言葉で言えば、悔い改めなければなりません。

十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老はこのように教えています。

「人は罪を犯すと神に背を向けますが、悔い改めるとき、向き直って神に立ち返るのです。

悔い改めへの呼びかけが厳しい非難の声であることはまれです。それはむしろ、向き直って、神に『再び立ち返りなさい』という愛ある願いなのです。〔ヒラマン7:17参照〕

これは、愛ある御父と御父の独り子からの招きです。今以上の自分になり、さらに高い生き方を手に入れ、変わり、戒めを守ることで得られる喜びを味わうようにという招きなのです。キリストの弟子であるわたしたちは、悔い改めのもたらす祝福と、赦されることで得られる幸せを知り、喜んでいきます。この喜びはわたしたちの一部となり、考え方や感じ方に大きな影響を及ぼしています。』⁴

悔い改めは、神に立ち返り、神の手で人生を形作っていただきたいと望むすべての人に与えられるすばらしい賜物です。

わたしたちは神の子なので、生まれながらにして靈に神の特質を宿しています。この特質は磨かなければなりません。選択の自由を義にかなった方法で使うときに、磨かれるのです。また、正しい決断をするときにも、人生で様々な決断をするに当たってキリストの光と聖靈を導き手とするときにも成長します。この過程には時間がかかりますが、日ごとに靈と人生を形作っていくことはできます。

わたしたちの献身と忍耐を御覧になって、主は、人が自分の力では得られないものを与えてくださいます。主はわたしたちが自分の不完全さと人としての弱さを克服しようと努力するのを御覧になるので、人を成長させてくださるのです。

その点で、悔い改めはわたしたちの日常の一部になります。毎週聖餐を取ることはとても大切です。つまり、柔和に謙遜に主の前に進み出て、自分が主に頼っていることを認め、赦され、更新されるように願い求め、常に主を覚えることを約束することは大変重要です。

日々キリストのようになろうと努力していると、自分が何度も同じ問題に苦しんでいることに気づくことがあります。それは、あたかも木に覆われた山を登っていたようなものです。頂上付近まで行って高い尾根から見下ろすま

で、どれほど進んできたかが見えないのです。気を落とさないでください。悔い改めようと努力し励んでいるならば、悔い改めの過程にあります。

十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老はこのように述べています。「新しい、健全な習慣を身につけたり、悪い習慣や依存症を克服したりするには、ほとんどの場合、今日努力して、明日も、その次の日も、あるいは何日も、何か月も、何年も、成功するまで努力を続けなければなりません。』⁵

自分が向上すると、物事がよく見えるようになり、自分の受ける聖靈の影響をもっと感じられるようになります。心から悔い改めているのに安らぎを感じられないと思う人は、戒めを守り続けてください。主の御心^{みこころ}にかなうときにその安らぎが得られることを約束します。癒やしには時間がかかります。

生まれながらの人を克服し、キリストの光により判断し、聖靈の導きを求め、力が及ばなかったときには悔い改め、天の御父がわたしたちのために計画されたとおりの人生へと天の御父に変えていただくことにより、永遠の観点を持ち続けましょう。■

2013年11月5日にブリガム・ヤング大学で行われたディボーションナルでの説教“Becoming a Work of Art”から。全文(英語)を閲覧するには speeches.byu.edu にアクセスしてください。

注

- 1.『聖句ガイド』「生まれながらの人」の項; scriptures.lds.org
2. トーマス・S・モンソン「危険な道」『聖徒の道』1998年7月号、54
- 3.『聖句ガイド』「光;キリストの光」の項; scriptures.lds.org
4. ニール・L・アンダーセン「わたしがあなたがたを癒すことができるように、……悔い改めなさい」『リアホナ』2009年11月号、40
5. D・トッド・クリストファーソン「日々の祝福に神の手を認める」『リアホナ』2012年1月号、29



あらゆる人への約束

「黒板にチョークで書いた文字を消すことができるように、真心から悔い改めるならば、イエス・キリストの贖罪を通して、背きの結果を消し去ることができるのです。この約束はどのような状況にも当てはまります。」

十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長
「靈的な守りを受けるための鍵」
「リアホナ」
2013年11月号、28



女性に對する 救い主の敬意

ロバート・ランド, マリー・ランド

一般的に女性が劣った存在として扱われていた時代に、イエス・キリストが女性
——に思いやりを示し、尊んでおられたことがヨハネの福音書から分かります。

十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老 (1862 - 1933 年) は「女性と女性の地位を守る世界最大の擁護者は、イエス・キリストである」と述べています。¹

この記事は、ヨハネの福音書に登場する次の女性たちに焦点を当てています。(1)イエスの母マリヤ(ヨハネ 2:1 - 11; 19:25 - 27 参照);(2)井戸端で出会ったサマリヤ人の女(ヨハネ 4:4 - 30, 39 - 42 参照);(3)姦淫かんいんの罪で捕らえられた女(ヨハネ 8:1 - 11 参照);(4)マグダラのマリヤ(ヨハネ 20:1 - 18 参照)。この女性たちの人生経験はそれぞれ大きく異なっていました。ヨハネは救い主がその様々な人生を理解しておられたことを強調しています。また、それぞれの女性がイエス・キリストに信仰を寄せたためにもたらされた祝福について記録しました。

キリストと、
ヨハネの福音書に登場する
女性たちとの交わりについて
調べることにより、
わたしたちが
主とどのような関係を築けるかを
さらに理解することができます。

最初に公に行われた奇跡に先立つマリヤの信仰

ヨハネはその福音書で早々にマリヤを読み手に紹介しています。カナの婚礼で初めて公に行われたイエス・キリストの奇跡の話には、マリヤの信仰への賛辞が記されています。

マリヤは婚礼で責任ある立場にいたようです。²「ぶどう酒がなくなったので、母はイエスに言った、『ぶどう酒がなくなっていました。』」（ヨハネ 2:3）この言葉は、マリヤが謹んで奇跡を期待しながらイエス・キリストに助けを求めたことを示唆しています。³

イエス・キリストはこう応えられました。「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません。」（ヨハネ 2:4）ジョセフ・スミス^かの靈感訳によると、救い主はマリヤに何をしてほしいか尋ね、それを行うと約束されました。⁴「婦人」という称号（訳注——英文では“Woman”）は現代の読者にとっては耳障りで礼儀を欠いているように聞こえるかもしれませんが、救い主はここで反対の意味を込めておられたようです。⁵ある学者は、「婦人」あるいは「女性」という言葉は、ギリシャ語では敬称に当たり、女王に対しても用いられる、と説明しています。つまり、主は母親に対し、「婦人よ、あなたが信仰をもって求めるものは何であろうと、あなたに授けましょう」とおっしゃったのです。⁶この話は、女性が日々直面する重圧に、救い主が関心を寄せておられたことを示しています。イエス・キリストは、母の重荷と責務の手伝いを申し出るにより母を敬われました。

続けて、マリヤがまた信仰を働かせて、イエス・キリストに従うよう僕に指示するくだりが記されています。「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい。」（ヨハネ 2:5）水がめに水が満たされ、救い主はマリヤの求めに応じて水をぶどう酒に変え、婚礼の客に振る舞うのをお助けになりました。マリヤから何とすばらしい教訓を学ぶことができるでしょう。困ったときには、全能のイエス・キリストを求め、頼るのです。マリヤと同じように、今日の末日聖徒の女性たちも自分の務めに圧倒されそうになるときに、信仰をもってイエス・キリストに頼ることができます。

この短い話は、マリヤの信仰の持つ力について教えているだけでなく、イエス・キリストが初めて公の場で起こされた奇跡を通して、キリストが確かに神の御子であることを示しています。ヨハネが次に読者に紹介している女性は、サマリヤの女です。



マリヤから何とすばらしい教訓を
学ぶことができるでしょう。
困ったときには、全能のイエス・キリストを求め、
頼るのです。



サマリヤの女はその信仰のゆえに
御^み霊^{たま}から証^{あかし}を得、
イエスがキリストすなわち
約束のメシヤであられることを
証したいと望みました。

イエス・キリストはサマリヤの女に敬意を示された

ヨハネによる福音書第4章の話から、イエス・キリストが、国籍や宗教にかかわらず全ての女性に敬意を払われたことが明らかです。一部のユダヤ人は、サマリヤ人を「他のどの国籍の異邦人よりも汚れた民」⁷とみなし、交わりを避けていました。イエス・キリストは当時の慣習を退けただけでなく、この女性に名誉を授けられた、と十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は指摘します。「御自分がキリストであることを主が最初に告げられた相手は、ヤコブの井戸の傍らにいたサマリヤの女でした。」⁸

暑い中、旅をしていたイエス・キリストは、休憩を取るために立ち止まり、水を飲もうとされました。救い主は井戸の傍らでサマリヤの女に水を求め、会話の口火を切られました。話すうちに、女は次第に主の神性について証^{あかし}を得ていきました。ヨハネは、女が最初イエスを「ユダヤ人」と呼び、次に「主」「預言者」そして最後には「キリスト」と呼んだと記録しています（ヨハネ4:9-29参照）。使う称号に敬意が増していく様子から、女がイエス・キリストへの信仰を育み、改心の度合いを深めていったことが読み取れます。

救い主は女に、御自分の「生ける水」（ヨハネ4:10）を飲む者はいつまでも渴くことがないとお教えになりました。女は困惑してさらに尋ねます。するとイエス・キリストは、サマリヤの女のこれまでの人生と現在の罪深い人間関係を明らかにされます。女は恥じ入ったでしょうが、一方でイエス・キリストの言葉に敬意が込められていたことも感じ取ったことでしょう。なぜなら、思慮深くこのように答えているからです。「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。」（ヨハネ4:19）罪が明るみに出て隠すことが何もなくなった女は、イエス・キリストを信じる信仰を働かせて主から教えを受けました。そのときの主の答えは救いを得る鍵と言えるかもしれません。「女よ〔あるいは、婦人よ〕、わたしの言うことを信じなさい。」（ヨハネ4:21）

サマリヤの女はその信仰のゆえに御^み霊^{たま}から証を得、イエスがキリストすなわち約束のメシヤであられることを証したいと望みました。女は水がめ（この世の財産の象徴）を残して町へ行き、こう宣言しました。「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんささい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません。」（ヨハネ4:29）神の手に使われる者となったサマリヤの女の信仰と伝道への熱意により、人々は心を和らげてイエス・キリスト

を受け入れました。

ヨハネはこの出来事を取り上げ、救い主が女性たちのことを気に掛けておられ、一人一人の生活について詳しく御存じであることを示しています。さらに主は、どのような背景を持ってしようと、全ての女性たちに敬意を払っておられます。自分はキリストとは関係ないと感じている女性や、社会から見捨てられたと感じている女性に向けて、この話は、イエス・キリストがそれぞれの女性の問題を御存じで、一人一人を受け入れ、高めてくださることを教えています。ヨハネによる福音書は、姦淫の罪で捕らえられた女性に対してキリストが示された思いやりについて教えることにより、この点を強調しています。

姦淫の罪で捕らえられた女に思いやりを示された イエス・キリスト

ヨハネによる福音書第8章では、女に対するパリサイ人の冷酷な扱いと、イエス・キリストが示された穏やかな敬意と思いやりとが対比されています。パリサイ人に、女性に対する冷酷な扱いに気づかせ、やめさせようとしてか、救い主は「身をかがめて、指で地面に何か書いておられ」ました(ヨハネ8:6)。「地面に書く[という行為]は、昔の時代によく知られていた象徴的な行いで、今起きている問題に関わりたくないことを示すものでした。」⁹

にもかかわらず、律法学者とパリサイ人はイエス・キリストにしつこく詰め寄り、女性を困らせ続けました。イエスは女を思いやり、「身を起して彼らに言われた、『あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい。』そしてまた身をかがめて、地面に物を書きつづけられた。」(ヨハネ8:7-8) 自分自身の過ちが露呈し、自責の念に駆られた非難者たちは恥じ入りながらその場を去っていき、姦淫を犯した女とイエスだけが残りました。

女が逃げずにイエス・キリストの傍らにとどまったことは評価に値します。イエスに尊重されたことにより、彼女は高められ、力づけられたことでしょう。主はこのようにお尋ねになりました。「『女よ[あるいは、婦人よ]、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか。』女は言った、『主よ、だれもございませぬ。』 イエスは言われた、『わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。』」(ヨハネ8:10-11)¹⁰

ヨハネによる福音書はここでも、イエス・キリストが女性に



女が逃げずにイエス・キリストの傍らにとどまったことは評価に値します。
イエスに尊重されたことにより、
彼女は高められ、力づけられたことでしょう。



マグダラのマリヤは復活された救い主を
初めて目にする人を選び、証する務めを託されました。
主は現代の女性に対しても、
主の証人になってもらいたいと思っておられます。

対してその罪にかかわらず思いやりを示し尊重されたことを証しています。わたしたちは皆、罪を犯したことがあるので、イエス・キリストを信じる信仰を働かせたこの女性の例から大きな希望を得ることができます。救い主は、苦しく惨めな状況にあったこの女性に思いやりを示されたのと同じように、墓の外で泣いていたマグダラのマリヤを見て、慰められました。

復活されたキリストの証人に選ばれたマグダラのマリヤ

ヨハネは、復活された主を最初に目にした人物を特定している唯一の福音書の著者です。ヨハネはそれにより、雄々しく有能な女性は偉大な霊的な現れを受けられるということを示しています。ヨハネはこのように記録しています。「一週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。」(ヨハネ 20:1) 石が取りのけられているのを見たマリヤは、助けを求めため、またイエスの体がないことを使徒たちに伝えるために走っていきました。そして、ペテロとヨハネを見つけました。二人が墓に駆けつけると、埋葬衣のみが残されていました。二人の使徒はそこを去り、マリヤは独り、墓の外に残されました。

マリヤは、主の体がどうなったのか分からずうろたえたことでしょう。墓穴の外で泣いていました。そこに救い主が御姿を現し、マリヤに話しかけられましたが、マリヤは最初それが主だと気づきませんでした。しかし、「イエスは彼女に『マリヤよ』と言われ」ました(ヨハネ 20:16)。マリヤはなぜかそれが救い主だと分かりました。「マリヤは瞬間的に気づきました。あふれる涙は限りない喜びに変わりました。それは他ならぬ主だったのです。主はよみがえられたのです。主は生きておられるのです。」¹¹ 復活された主を見たマリヤは、主が生きておられることを使徒たちに証するようと言われました。

弟子たちは初め疑いましたが(ルカ 24:11 参照)、マリヤの証言に力があったのでしょうか。弟子たちは後に集まってその日に起こった出来事について話し合いました。おそらくマリヤの証について深く考えたことでしょう。ちょうどそのとき、イエスが「はいつてきて、彼らの中に立ち、『安かれ』と言われ」ました(ヨハネ 20:19)。

この出来事は、イエス・キリストが女性を尊んでおられることを強調しています。なぜなら、マグダラのマリヤが復活された救い主を初めて目にする人に選ばれ、証する務めを託されたからです。主は現代の女性に対しても、主の証人に



なってもらいたいと思っておられます。M・ラッセル・バラード長老はこのように宣言しています。「わたしたちの神権時代にもヒロインはいます。あらゆる大陸において、あらゆる階層の数知れない女性たちがキリストの大義のために劇的な貢献をしてきました。……そこでわたしはこう尋ねたいのです。『皆さんはこのような女性の一人になりたいと思っていますでしょうか。また神権者である男性の皆さんは、同じ呼びかけに応えたいと思っていますでしょうか。』」¹²

わたしたちもこの女性たちの模範に倣うことができる

わたしたちは、イエス・キリストを信じる信仰を通して、ヨハネの記録に登場するこの女性たちの模範に倣うことができます。日々の生活で受ける重圧を救い主が理解し、重荷を背負えるよう助けてくださることを信頼することができます。イエス・キリストが、わたしたちの背きにもかかわらず高めてくださることを信じることができます。さらに、最も深く悲しみ、苦しんでいるときにも、キリストは助けてくださることを知ることができます。■

筆者夫婦はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

注

1. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』463
2. ブルース・R・マッコンキー, *Doctrinal New Testament Commentary*, 全3巻(1965-1973年)第1巻, 135
3. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』141参照
4. ジョセフ・スミス訳, ヨハネ 2:4 (末日聖徒版聖書〔英語〕ヨハネ 2:4, 脚注 a) 参照
5. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』141参照
6. J・R・ダメロー編, *A Commentary on the Holy Bible* (1909年) 778で引用
7. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』169
8. M・ラッセル・バラード「義になつた女性たち」『リアホナ』2002年12月号, 34参照
9. J・R・ダメロー編, *Commentary*, 788-789
10. ジョセフ・スミス訳には、そのとき以降、この女性が神をほめたたえ、主を信じるようになったという記述が加えられています(ジョセフ・スミス訳ヨハネ 8:11参照)。
11. ブルース・R・マッコンキー, *The Mortal Messiah*, 全4巻(1979-1981年)第4巻, 263
12. M・ラッセル・バラード『リアホナ』2002年12月号, 38-39



疑念や 疑問が生じたら

疑問は永遠の成長に不可欠な要素であり、
主の方法で答えを探し求めるならば、
わたしたちは天の御父に近づくことができます。

アダム・コッター

大半はインターネットが原因ですが、教員が、自分の信じていることに反する考え方に出会うことは、少なくありません。疑問が湧き上がると不安になり、自分の信仰に疑問を持ってよいのだろうか戸惑う会員もいます。

疑問を持つことは良いことだと考えることが大切です。事実、信仰に関する質問をすることは、霊的な成長に欠かせません。しかしながら、じんし真摯な疑問と疑いは、同じものではありません。

疑問と疑念

それでは、疑問と疑念は、どう違うのでしょうか。理解と信仰を深めたいという真摯な望みがあって行うのであれば、疑問についての質問は大いにすべきです。昔も現代も、多くの啓示は、誠心誠意で尋ねた問いの答えとして与えられました。¹ 見いだすために尋ね求めよとは、聖文の中で最も多く繰り返される勧告の一つです。真摯な疑問とは、さらによく理解し、さらに十分に主の御心みこころに従えるようになるために「誠心誠意」尋ね求める疑問です（モロナイ 10：4）。

真摯に問いかける人は、答えを探し求めている間も、引き続き従順です。これに対して、自分の信仰に疑念を抱くと、答えが見つかるのを待つ間、戒めや聖約を守るのを一時やめてしまう人がいるのを、わたしはこれまで見てきました。疑念を持つ人には、一般的に、疑念が解けるまでは戒めを守るのを控えたり制限したりする傾向があります。

疑念を抱きなさいという勧めは、聖文にも預言者の教えにもありません。むしろ聖文には、それと反対のことを教えている箇所がたくさんあります。例えば、わたしたちは「疑ってはならない。恐れてはならない」と命じられています（教義と聖約 6：36）、モルモン書第 9 章 27 節には、「疑ってはならない。信じなさい」という勧めがあります。

疑念の困った点の一つは、本人に満足する形で疑念が解消してから戒めを守ろうと考えることです。これでは、「もしあなたが、神のいることを確信させるしるしをわたしに見せ……てくれるなら、あなたの言葉が真実であることを納得するだろう」と言ったコリホルが示した態度と同じです（アルマ 30：43）

疑念には信仰と希望、家族までも損なう力がありますが、疑念を持ったとしても、「疑問が解けるかどうかに関わりなく、わたしは主が命じられたことを行います。そうすると聖約したのですから」と直ちに心から言うならば、その力は弱まります。「わたしは戒めを守ります。なぜなら……」という信仰のある態度と、「わたしは……であれば戒めを守ります」という疑い深い態度の違いは、永遠の行く末に多大な影響を与えます。

答えを受けるための主の方法

わたしはネットワークエンジニアとして、自分のコンピュータネットワークが他のネットワークとうまく通信できるようにするために、厳しいガイドラインに従わなければなりません。規則が煩わしく思えることもありますが、それぞれのネットワー

クエンジニアが同じ基準に従って操作した場合、一人一人が別個に自力で行うよりも有力なものを作り出すことができます。

同様に、霊的な事柄に関する疑問があって、あらゆる知識の源である御方に答えを尋ね求める場合は、答えを頂くためには主のルールに従わなければなりません。その場合は、少なくとも真理を理解したいという望みと、神の御心みこころに従うという意志がなければならないのです(アルマ 32:27 参照)。そうでないと、本当の答えを神から頂くのではなく、自分が信じたいと思う答えを自分に言い聞かせることになる危険性があります。

聞き慣れない考え方を聞かされると、不安になったり落ち着かなくなったりするのは全く普通のことです。特にそれが、固く信じている事柄であれば、なおさらのことです。大切なのは、落ち着かないからといって、答えが見つかるまでの間、聖約に背を向けないようにすることです。個人的な経験から学んだのですが、人は神に背を向けていながら、自分が決めた条件下で神から答えを頂くことはできません。確信が得られるまでの間も、引き続き戒めを守るという信仰がなければならないのです。不安が解消して信じられるようになるまで戒めを守るのを控えたり制限したりする誘惑に駆られるかもしれませんが、それは神の方法ではありません。

実際、わたしたちはまず、自分にこう問いかけなければなりません。「主から答えを頂くために必要なことを行う意志が自分にはあるだろうか。それとも自分は、自分の方法で物事を行おうとしているだけだろうか。」これについては、救い主御自身が教えておられます。こう言われました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教おしえが神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7:17)

ですから、疑問を解くための最初のステップは、「確固として動かずに神の戒めを守[る]」ことです(アルマ 1:25)。十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は、次のように問いかけています。

「信仰の試しを受けるとき、どうしたら『確固として動かずに』いられるでしょうか。それには、信仰の核を築いてくれたものに浸ることです。つまり、キリストを信じる信仰を働かせ、祈り、聖文について思い巡らし、悔い改め、戒めを守り、人に奉仕するのです。

信仰の試しに遭うとき、何をするにせよ、教会から離れてはなりません。信仰の試しの間神の王国から離れるのは、竜巻が



信仰の試しの間神の王国から離れるのは、竜巻が見えたときに、安全な避難用地下室を離れるようなものです。

見えたときに、安全な避難用地下室を離れるようなものです。」²

アンダーセン長老は、「信仰とは単なる感情ではなく、……決断を伴うものである」と言っています。³ 主は無理やり理解させようとしたり、強制的に従わせたりはなさいません。信仰とは、意図的に選ぶものです。選ぶ際には自分の理解していることに従って正直に選びます。これは、自分の選択の自由を永遠の神聖な観点から尊重している証拠です。

疑問があると理解が深まる

教会の歴史や教義に素朴な疑問を感じるのは教会の標準に従って生活していない証拠だと考える人がいますが、これは間違いです。疑問があるのは何か大きな罪を犯しているからではありません。疑問は生きている限り常に付きまとうものであり、成長し、理解を深めるために必要です。大切なのは疑問が湧いてくるかどうかではなく、疑問の答えにつながる啓示を求めている間も戒めを守るかどうかです。

サタンはわたしたちの疑念を膨らませ、罪を正当化させようとするので、気を付けてください。罪を犯すと不快な気持ちという形で聖霊の促しがあります。その場合、悔い改めて嫌な気持ちを振り払うか、促しを拒否するかのどちらかしかありません。疑念が湧き上がったら、福音に反することをしたり望んだりしていないかどうか、正直に自分に問う機会として、それを役立てることもできます。福音に反することを行っている場合は、ビショップに助けを求めてください。このようにすれば、人生が見違えるように変わります。悔い改める代わりに、疑念によって自分の罪を正当化しても、決

してうまくはいきません。

また、教義についてではなく、自分の意見として教会の指導者が言ったことが間違いだと分かるにつまずく人もいます。例えば、ジョセフ・フィールディング・スミス（1876 - 1972年）は、『質疑応答』（Answers to Gospel Questions）の初版に「人が宇宙空間を移動して月や遠くの惑星に到達できる道具や宇宙船を作れるようになるかどうかは疑わしい」と書きました。⁴

その後、アポロの月面着陸とデビッド・O・マッケイ大管長死去の後、ジョセフ・フィールディング・スミスは教会の大管長になりました。記者会見でレポーターから先の言葉について質問を受けると、スミス大管長は「そう、わたしは間違っていましたね」と答えています。⁵

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が言うように、「[わたしたちは、] 死すべき人間は神が期待しておられるような者になろうと常にもがいていることをただ単に証明したにすぎない教会歴史上の小さな出来事……にこだわり続けているために、とても大切な心と霊の力を使い果たしています。』⁶

人を高める方法で探し求める

回復の物語を調べるために何巻もの書物が書かれ、数え切れないほどの時間が費やされました。このようにすれば理解が深まることもしばしばですが、かえって不安な気持ちが増長される可能性もあります。当時の人々の動機がよく理解できていない場合には、特にそうです。誤解されていたり今では失われたりしている歴史的事実ばかり追い求めるのは簡単ですが、わたしたちに必要な真実の情報は、全てを

理解している御方から、いつでも頂くことができます。

恐らくこれが、何よりも大切な鍵でしょう。交わした聖約を守り、持っている光に忠実に生活するならば、主はわたしたちを祝福し、靈感を与えてくださいます。わたしはこの深い憐れみを感じてきました。それは非常に個人的なもので、人と天の御父との間の直接的な経験です。それは、光と知識です。第三者が経験したことをどれほど読んでも、いかにたくさん研究しても、御父の憐れみと愛によって与えられる直接的な経験の威力にはかないません。

聖文その他で福音の研究を日々行っていると、引き続き疑問が生じることでしょう。主は何かを教えたいと思われるので、わたしたちに疑問を与えて考えさせようとなさることがよくあります。答えは、交わした聖約に忠実であり、人に奉仕しながら研究することによって与えられます。そうすることこそが、やがては全ての疑問の答えを与えてくれる個人的な経験をするために取るべき方法だからです。■

筆者はアメリカ合衆国ジョージア州在住です。

福音に関する多くの疑問の答えを、lds.org/topicsで見いだすことができます（訳注——各項目のウェブサイトの言語選択欄に「日本語」があるものは日本語で閲覧できる）。

注

1. 例えば、創世 25 : 21 - 23 ; 出エジプト 3 : 11 - 22 ; モーサヤ 26 章 ; アルマ 40 章 ; 3 ニーフアイ 27 章 ; 教義と聖約 76 章 ; 77 章 ; 138 章参照
2. ニール・L・アンダーセン「信仰の試し」『リアホナ』2012年11月号、40
3. ニール・L・アンダーセン「あなたは十分に知っています」『リアホナ』2008年11月号、14
4. ジョセフ・フィールディング・スミス、Answers to Gospel Questions（1958年）全5巻、第2巻、91
5. デビッド・ファーンズワースの私的な回顧録。記者会見は、月面着陸の6か月後、1970年1月23日に行われた。
6. ジェフリー・R・ホランド、「ぶどう園の労働者たち」『リアホナ』2012年5月号、32参照



教義的に確かなこと

「人の不完全さを、たとえそれが神の預言者であっても、わたしは容認できます。人間が不完全なのは当たり前だからです。モルモン書に反する科学結果が出ているという訴えにも動揺しません。時間が間違いを正してくれるはずで、歴史的に見て不可解な出来事も

受容できます。真理全体から見ればささいなことですが、ジョセフ・スミスによって回復された教義上の真理と儀式がなくしては生きられません。家族を祝福する神の神権がなくしては生きら

れません。妻と子供たちと永遠に結び固められているという確信がなければ生きることはできません。ここでわたしたちは選択に迫られているのです。一方に幾つか答えの出していない疑問があり、もう一方には、教義上確実となっている多くのことと神の力があるのです。」

中央日曜学校会長 タッド・R・カリスター

「キリストの教会の設計図とは」（CES ディポーショナル、2014年1月12日）
cesdevotionals.lds.org

祈りなさい

2010年1月12日、天の御父はわたしに御自身の力を示してくださいました。ハイチを荒廃させる恐ろしい地震が起こり、コンクリート製の4階建てビルがわたしの周辺と頭上に崩れ落ちてきたときのことです。

重いがれきの下で叫んでいると、静かな声がわたしにこう語りかけてきました。「ジミー、叫ぶのではなく祈るのです。」

しかし、叫ばずにはいられませんでした。数分もたたないうちに、自分は死ぬのではないかと思ったからです。その声は、助けたい一心の親しい友人から発せられる声のようで、もう一度わたしに語りかけてきました。「ジミー、祈りなさい。」

脚には耐えられないほどの激痛が走り、周りは真っ暗で、酸素はなくなりか

けていました。同じ声がもう一度語りかけてきました。「ジミー、祈りなさい。」

そのとき、わたしはその声の勧めに従いました。弱々しい声で、わたしは祈りました。「天のお父様、お父様はわたしの力を御存じです。この痛みにわたしがどれほど長く耐える力があるかも。お願いです、どうぞこの痛みをわたしから取り去ってください。イエス・キリストの御名により、アーメン。」

その簡潔な祈りを口にした途端、わたしは眠りに落ちました。その後何が起こったのか分かりませんが、深い眠りから覚めたとき、先ほどの痛みはなくなっていました。それから間もなくして、救助隊がわたしを見つけてくれました。倒壊したわたしの会社のビルの

中で犠牲者を探していたのです。

ポルトープリンズにあったわたしが勤務する会社のビルの2階では、5人の従業員が働いていました。後になって知ったのですが、そのうちがれきの中から生還したのはわたし一人だけでした。けがのため、わたしは片足を失い、数か月、入院しました。しかし、わたしは知っています。聖霊がわたしに祈るよう促してください、天の御父がその祈りにこたえてくださったのです。

わたしたちがどこにしようと、またいつ祈ろうと、天の御父は御自身の方法で御自身の望みに応じて、わたしたちの祈りにこたえてくださると証^{あかし}することができます。■

ジミー（ハイチ、セントルイス）



学んだことで心が変わりました

18歳の息子、ジャクソンが亡くなった後、わたしはどのような人生を、どのような方向性をもって生きていけばよいのかについて深く考えました。子供は霊界に行ってしまいました。わたしは、いつの日か、現世での家族関係を再び享受できるような人生を送りたいと切に望みました。また、人生の指針として、聖文をもっとよく理解したいと思いました。

心に対する関心がいつから始まったのか、わたしにはよく分かりませんが、息子にもう一度会いたいという望みからその関心が深まりました。モルモン書を読むにつれて、人の生活の状態、あるいは人々の方向性や状態として、心が象徴的にどのように用いられてい

るかに気づき始めました。

かたくなな心であろうと柔和謙遜な心であろうと、心について語られる度に、わたしは聖典の余白に小さなハートマークを描きました。すると幾つかのパターンに気づき始めました。人々は、その心が柔和謙遜になっているときに、逆境に対処する力を得、周囲の人々への愛が増し、より親切で穏やかになりました。わたしは、救い主とその^{あがな}贖いの犠牲により頼み、悔い改めるときに心が変わるということを学びました。

モルモン書の研究を通してすばらしい経験ができました。学んだことで心が変わりました。そして人生が変わりました。また、学んだことは、カウンセラーとして、数々の夫婦が試練を乗り

越えられるよう助けるときに役立ちました。夫婦間の満足や真の親密さをもたらす普遍的な原則について夫婦に教え、思い起こしてもらえることも分かってきました。しかし、柔和謙遜な心で結婚生活に臨まないかぎり、夫婦間に変化が起きたり、その変化が永続したりすることはほとんどありません。

モルモン書の余白にハートマークを描くようになってからというもの、そういった聖句を何度も繰り返し読み、そこから学び続けています。最初に読んだときには見過ごしていた、心に関する新しい聖句も見つけました。それらの聖句は、聖文には学び、理解し、応用すべき新しい発見がいつもあるということ思い出させてくれます。

最も大切なのは、天の御父と救い主の愛を思い出させてくれるということです。その愛のゆえに、わたしの家族は永遠のものとなるのです。わたしは、このことを心の底から知っており、そのことに深く感謝しています。■

ダーシー（アメリカ合衆国アラスカ州、ローガン）

脚には耐えられないほどの激痛が走り、周りは真っ暗で、酸素はなくなりかけていました。



素早くきれいに
磨いたら、
その靴をそっと
元あった所に戻しました。

同僚の日の栄えの靴

何年も前のことです。プロボ宣教師訓練センターを後にしたわたしは、伝道地で働き始める準備ができたと感じ、胸を高鳴らせつつ、フロリダに到着しました。新しい同僚と会ったとき、二人の間には共通の関心がたくさんあり、完璧な同僚ペアのように思えました。

しかし、数週間たつと、幾つかの違いがあることに気づきました。例えば、わたしは毎日、伝道に出かける準備ができていましたが、同僚はドアをノックすることにそれほど熱心ではありませんでした。実は、同僚は先輩宣教師でしたが、あまり伝道をしたがりませんでした。

また、同僚は自分のことについてばかり話す人物だということに気づきました。彼の家族は経済的に裕福で、恵まれない環境の出身のわたしにはない経験がたくさんありました。

こういった事柄が発端となり、自分の中に幾つかの不愉快な感情が芽生え、それがほとんど嫌悪のレベルにまで膨らんでいったのです。心の中に渦巻く同僚への嫌悪感は、わたしの霊性に悪影響を及ぼしました。福音を教えようとするときはなおさらでした。何とかしなければなりませんでした。最初は、同僚と話し、自分の不満を洗いざらいぶちまけようかとも思いました。しかし、わたしは別の方法を取ることにしたのです。

毎朝、同僚とわたしは、交代で、シャワーを浴び、その日の準備をしました。同僚がシャワーを浴びている間、わたしはこっそり彼のベッドの足元に行き、そこに置いてあった彼の靴を磨くことにしたのです。素早くきれいに磨いたら、その靴をそっと元あった所に戻しました。約2週間にわたり、わたしは毎朝、この作業を繰り返しました。

そのうちに、自分の嫌悪感がなくなり始めたことに気づきました。同僚に奉仕することで、わたしの心は変わり始めたのです。このささやかな奉仕の行為について、彼には黙っていました。ある日のこと、同僚は、靴が全く汚れないようなので「日の栄えの靴」を授かったに違いない、と言いました。

わたしはこの経験から二つの教訓を学びました。第1に、悪い気持ちのきっかけは外から来ましたが、真の問題はわたしの内にあるということを学びました。同僚の問題ではなかったのです。

第2に、わたしたちは、通常、愛している人に奉仕するということは知っていました。しかし、同じ原則は逆にしても機能するということに気づいていませんでした。わたしたちは奉仕の対象となる人を愛するようになるのです。■

マイケル・リード (アメリカ合衆国、アリゾナ州)

預言者の声が聞き分けられました

就学のために母国メキシコから合衆国へ引っ越して約3か月がたったある日曜日の夜、わたしはラジオのチャンネルを次々に変え、日曜日にふさわしい音楽を探しました。地元のラジオチャンネルから流れる放送を幾つか聞くうちに、耳慣れた声が聞こえてきたので、そのチャンネルで止めました。

当時、教会の大管長だったゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）の声ではないかと思いました。自分が彼の声を聞き分けられるなんて変だと思いました。話者の声に合わせて話すスペイン語通訳者の声で、総大会、教会教育システムのファイヤサイド、その他の教会放送を聞くことには慣れていました。しかし、どういいうわけか、ラジオから流れる声が、ヒンクレー大管長の声だと分かったのです。

話の内容が理解できるほどわたしの英語は流暢りゅうちやうではありませんでしたが、とにかくラジオの話に耳を傾けました。その声を聞いていると平安な気持ちを感じました。話が終わったとき、ラジオのアナウンサーがこう言いました。

「ただいまのお話は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長でした。」

主はその僕しもべを通じて語られ、主の言葉は、主御自身の声によろうと、主の預言者の声によろうと、同じであるということをおわたしは知っています（教義と聖約1:38参照）。

わたしは、自分がヒンクレー大管長の声を聞き分けられたことが、どれほど特別なことなのかについて考えました。考えた末、情報源が何であれ、主が御自身の子供たちと交流するときに使う声を

いつも認識できるようにしなければならないということに気づきました。

「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。」救い主はそう言われました（ヨハネ10:27）。

数々の声、次々と変えることのできる多くの「チャンネル」であふれる世界にあって、自分がいつでも羊飼いやその僕の声を判別でき、喜んで彼らの助言に従うことできるよう願っています。■

ミリアム・ルイス（アメリカ合衆国、ユタ州）

地元のラジオチャンネルから流れる放送を幾つか聞くうちに、耳慣れた声が聞こえてきたので、そのチャンネルで止めました。



両親から 学んだこと

ヤングアダルトが
両親から学んだ教訓をどのように生かしているか
紹介します。



勤勉に働く

我が家では一生懸命働くことを学びました。わたしの家族は「勤勉リスト」と呼ばれるシステムを使っていました。月初めに、皿洗いや馬の世話など、様々なお手伝いのリストを受け取りました。一つ一つ終わる度にリストに印を付けていき、月末にはその表に付けた勤勉な働きの印の数に応じてお小遣いをもらいました。このことから、わたしは勤勉に働き、無駄遣いしないことを学びました。

ペータ・ステゲビ
(スウェーデン、バステルボッテン)

義になつた両親

ひとり親だった母は、たくさんすることがありましたが、わたしを助けたり、慰めたり、あるいは単にわたしの話を聞いたりする時間を必ず取ってくれました。母がいつもわたしのためにいてくれるという意識は何にも代え難いことでしたので、将来自分の子供にも同じようにしたいと思います。

母が再婚すると、再婚相手は兄とわたしの父親となることを選んでくれました。間もなくして、妹が家族に加わりましたが、どの子にも自分の子供として優しく愛情深く接する父の態度から、いっさい差別を感じたことはありません。父の態度のおかげで、兄とわたしは堅固で一致した、神権のある家庭で育つことができました。家族として結び固められた日は特別な日でした。父の愛ある模範から、父親とは単なる肩書きではなく、意図的になるものであることを教えられました。

アマンダ・コーネリウス (スウェーデン、ストックホルム)



天の守り

子供のとき、父は遠方で働いており、いつもすっかり暗くなってから帰宅しました。わたしは父が帰るまで起きていました。ところが、ある夜、父の帰りがとても遅く、電話もつながりませんでした。わたしは怖くなりました。両親から、いつも祈るように、そして怖いときは助けを祈り求めるように教えられていたので、わたしはひざまずいて父が無事に帰宅するよう祈りました。驚いたことに、わたしが祈り終わるやいなや、外から父の自転車の音が聞こえました。父を守ってくださった天の御父にとっても感謝しています。

ヤングアダルトになっても、混乱や不安を感じたら、まず最初に思い浮かぶのは天の御父です。御父がいつもともにいて、わたしの祈りにこたえてくださることを知っています。

ロヒニ・クリシュナン (インド、バンガロール)

祈り

ある夜、わたしは父に何か尋ねたくて両親の寝室へ行きました。ところが、父が祈っている最中だったので、一度出て数分後に戻りました。すると、父はまだ祈っていました。わたしは寝る支度をすることにし、寝る前の日課がひととおり終わる頃には間違いなく父が祈り終わっているだろうと考えました。10分後に両親の寝室に戻ると、父はまだ祈っていました。父のその模範を見て、わたしの証は強められました。父は本当に心を注ぎ出して天の御父に祈っていたのです。
ジェン・ハンセン（合衆国、ユタ州）



神殿結婚

両親が彼らのなれ初めについて教えてくれたことに感謝します。二人は14歳のときに良い友達になり、成長していく中で一緒に学びました。時間がたち、友情は真の愛に発展し、二人は神殿で結婚しました。わたしは神殿で結婚した両親の模範に倣いたいです。そして、わたしも彼らのように幸福と真の愛を知りたいと思います。
パサーレ・アナ・マリア（ルーマニア、ブラホバ）





キリストを中心とした家庭

両親の関係の中心にはいつもイエス・キリストがおられます。二人は御霊がとどまる家庭環境作り^{みたま}に焦点を当て、家族の聖文研究、家族の祈り、家庭の夕べを最優先にしています。

あるとき、母は、離婚したばかりの若い母親の訪問教師に召されました。わたしが帰宅すると、母がその女性の幼い息子二人を子守りしていることがよくありました。時折、母と一緒に外へ出て用事を足している途中でその女性の家に立ち寄り、母が玄関先にちょっとした短い手紙を書き残すこともありました。「自分の利益を求め〔ない〕慈愛を持つ母の模範にとても感謝しています（モロナイ 7：45）。

両親は神の王国を確立するために常に新しい技能や知識を身に付け、活用しています。彼らの模範のおかげで、わたしも教育を受けることを優先して生活してきました。両親の模範に従ったことで、わたしはイエス・キリストを中心とした生活をしている男性と結婚しました。

レーチェル・ニールセン（アメリカ合衆国、ユタ州）



天の御父とイエス・キリストを信頼する

父はどんな物でも直せます。10代¹⁰のとき、どうしてそれほど上手に物を直せるのか尋ねたことがあります。すると、父はこう言いました。「作業を始める前に天の御父に祈って、助けてくださいと願うんだ。それから作業に取り掛かるのさ。」父の模範から、謙遜であること、そして天の靈感を求めることを教えられました。

母は落ち込むと、救い主の足元で癒やしと平安を求めてきました。わたしが同じような落胆を味わっていると、母は贖いの力に頼るように勧めてくれました。ヤングアダルトになった今も、母の義にかなった模範に倣って、救い主が与えてくださる平安や、安心感をもたらす愛を求め続けています。

イーサク・マルム（スウェーデン・ヨンショーピング）



神から受け継いだ特質

幼いとき、両親はわたしの心に天の御父の純粋な愛を植え付けてくれました。母が歌ってくれる「神の子です」（『賛美歌』189番）を聞きながら、わたしは主を知り始めました。また、時がたつにつれ、両親の模範に大いに鼓舞され、奉仕を行って、教会の集会や活動に忠実に出席することを通して、天におられる御父について知り、御父を愛するようになりました。

マルリン・オルテガ・バスケス
（ニカラグア、マナグア）

新しい目的地

アマンカイ・コテカ - ミーニョ

わたしの人生は時々、いつまでも続く飛行機のフライトのように感じます。わたしの母はエクアドル人で、父はポーランド人です。わたしはエクアドルで生まれましたが、10歳のときにスペインに引っ越しました。スペインにはわずか2年しか住みませんでした。12歳のときにまた人生の飛行機が飛び立ち、今度はポーランドへ行きました。わたしは安定した、友達や親戚が近くにいる生活を切望し、もう誰かと別れるのは嫌だと思っていました。

長老たちとの最初の出会い

誰かが我が家のドアをノックしました。ドアを開けると、二人の青年が立っていました。無神経にも、わたしは彼らが口を開く前にドアを閉めてしまいました。

「またドアを開けて、おわびをなさい」と命じる父の声が家の奥から聞こえました。「そんな失礼な態度を教えた覚えはないぞ。」

ばつの悪い気持ちで再びドアを開けて、わたしは「ごめんなさい」とつぶやきました。

「あなたがたと、あなたがたの信じていることについて知りたいです。どうぞお入りください」と父は招き入れました。青年たちは末日聖徒イエス・キリ

スト教会の宣教師であると自己紹介しました。わたしはしぶしぶ彼らのメッセージを聞きました。13歳でしたから、そうする以外に選択肢はありません。

宣教師たちは4か月間我が家を訪問し、イエス・キリストの回復された福音の教義を教えてくださいました。「あなたがたの勇気に敬意を表しますが、宗教を変えるつもりはまったくありません。」父はついに宣教師にそのように告げ、わたしたちは二度とその長老たちと会うことはありませんでした。

真理を求める心

2年が過ぎ、家族の状況の変化からわたしは深い悲しみを味わっていました。父が仕事を探すためにポーランド国外に出ていましたので、家族は離れて暮らしていました。わたしは必死に神を求めました。より一層心を込めて祈るようになり、天の御父の存在を見いだせるよう、助けを求めて御父に懇願しました。

ある日、母がこう言いました。「ガーリングと言う名前の人から連絡があったわよ。来週また電話するように言ったわ。」母はそれが宣教師からの電話であると分かっていたのですが、メッセージに興味がなかったので、そんなに早く連絡する必要がないと思ったのです。

その週の金曜の夜、再びドアをノッ

わたしの人生は果てしなく続く飛行機のフライトのようでした。安らぎと安定を切望しましたが、主に本当に心を向けるまで見いだせませんでした。

クする音がしました。わたしは今度は心からの笑顔で宣教師を歓迎しました。「我が家に歓迎しますが、わたしは決してモルモンにはなりません」と彼らに伝えました。

この長老たちはそれでもわたしを教えてくださいました。6か月間、毎週金曜日の午後に来てくれました。母のクッキーをたくさん食べ、幾多の質問に答えてもらううちに、わたしの心の奥にあった疑問が答えられていきました。宣教師が訪問する度、人生のパズルにピースが一つずつはまっていくようでした。すっかり興味が沸いたわたしは、ついに長老たちが勧めたことを実行しました。すなわち、彼らの教える事柄やモルモン書が真実であるかどうか天の御父に祈って尋ねたのです。神は必ず祈りにこたえてくださると彼らは証あかししました。

確信と躊躇

よく祈り、聖文をさらに深く研究するうちに、これらの教義はわたしの心に心地よいものとなりました。数か月の間、わたしは躊躇しました。動かぬ証拠が必要だ、この教会に入る前に福音について全部知っておくことが必

がバプテスマの選択を受け入れてくれないのではないかと恐れられました。

少しずつ過ちや誤った決意を積み重ねた結果、御霊のささやきに鈍くなっていきました。しまいには聖典が荷物^{みたま}の一番奥で忘れられ、祈ることもやめてしまいました。

に戻りました。そのために悔い改めが必要になることは承知していました。次の日曜日、約1年ぶりに聖餐会^{せいさん}に出席しました。そして、翌日、バプテスマを受けることを再び決意しました。

一度は真実であると確信した福音に戻るための険しい道のりの間、主はわたしを助けてくださいました。今となつては、あの難しい状況は神からのすばらしい祝福だったと思います。主はわたしをお忘れになっていませんでした。わたしの祈りにこたえられ、わたしが御自身の答えを認識するのを待ってくださいました。わたしが苦しんでいる間、ずっとわたしを助け、強め、守ってくださいました。この過程の中で、わたしはキリストの神聖な使命と主の贖い^{あがな}の意味をさらに明確に知りました。

わたしは2011年4月にバプテスマを受けました。あれから人生の飛行機はまた飛び立ち、今はフランスに住んでいます。また生活が変わったということです。しかし、自分の生活について、そして主がわたしに与えてくださった生活状況について、今は主に感謝しています。イエス・キリストの贖いに対する証のおかげで、人生でどんなことが待ち受けていようと自分が独りではないことが分かりました。人生の飛行機がまた飛び立つのかどうかは分かりません。唯一分かることは、天の御父とその御子イエス・キリストと永遠に住む生活につながるまっすぐな道が、わたしの新しい目的地になったということです。■
筆者はフランス在住です。



要だと感じていたからです。結局、ヨハネによる福音書第20章29節に記されている救い主の言葉が心に響きました。「見ないで信ずる者は、さいわいである。」わたしはバプテスマを受けることにしました。

両親は成人するまでバプテスマを受けるのを待つという条件を出しましたが、その待っていた期間はわたしの成長と福音の知識を増すのに役立ちました。悲しいことに、バプテスマの日が近づくにつれ、わたしは自分の受けた答えに自信が持てなくなりました。この世的な事柄に気を取られたり、愛する家族

悔い改めの祝福

わたしの生活は思うようにはいかず、あまりにも多くの落胆や涙を経験しました。自分の家族がなぜそれほど多くの試練に直面しなければならないのか、理解できませんでした。高校最後の1年を目前にして、両親がポーランドを離れました。また引っ越す可能性が高まったことでわたしは苦悩しました。ついにひざまずき、文字どおり心から願いました。「天のお父様、わたしの望みではなく、お父様の御心^{みこころ}のままになさってください。」

その祈りをきっかけにわたしは教会

自分が持つ 以上の 力

イエス・キリストの贖罪しよくざいが持つ、人に能力を授ける力は、
善を行い、善人になり、自分自身の望みや本来の能力を超えた
働きができるようにわたしたちを強めてくれます。



十二使徒定員会
デビッド・A・
ベドナー長老

贖罪あがなが持つ贖いと清めの力の本質については、人に強さと能力を授ける力よりもはるかによく知っているという教会員が多いのではないのでしょうか。確かに、イエス・キリストは地上に来てわたしたちのために死んでくださいました。そのことを知るの^は大切ですし、それはキリストの教義の根本に関わる基礎的な部分です。しかし同時に、主は贖罪を通し、そして聖霊の力により、わたしたちの内に生きて、わたしたちに導きだけでなく力を与えたいと望んでおられることも理解する必要があります。

間違いを犯したとき、生活の中で罪の影響力に打ち勝つには助けが必要であるということは、ほとんどの教会員が知っています。救い主は代価を払い、主の贖いの力によってわたしたちが清くなれるようにしてくださいました。大半の人は、贖罪が罪人のためにあることを明確に理解しています。しかし、わたしたちは贖罪が聖徒のためにもあること、すなわち、従順で良心的でふさわしい人、また、より善い人になり、より忠実に仕えようと努力している善良な男女のためにもあることを理解しているのでしょうか。善人からより善い人になり、聖徒となる旅を、わたしたちは自分の力だけで歩まなければならないと思いを違えて

いるかもしれません。根性や意志の力、自制心だけによって、明らかに限界のある自分の能力に頼って進もうとしていないでしょうか。

救い主の福音は、単に生活の中で悪を遠ざけることではなく、本質的に、善を行い、善人になることでもあります。そして贖罪は、わたしたちが悪に打ち勝ち、悪を避けると同時に、善を行い、善人になる助けを与えてくれます。救い主の助けは、悪人から善人に、そしてより善い人になる旅、自分の性質そのものを変えるこの現世の旅の間、絶えず受けることができるのです。

贖罪が持つ贖いの力と人に能力を授ける力が関連のない別個のものだと言っているのはありません。むしろ、贖罪のこれら二つの側面は結びついており、補い合っています。人生の旅のあらゆる段階において両方の力が働いている必要があります。そして現世の旅に不可欠な二つの要素である、生まれながらの人を捨てることと聖徒となることの両方が贖罪の力によって成し遂げられるということを認めることが、わたしたち全員にとって常に重要です。悪に打ち勝つことと善人になることの両方が、贖罪の力によって成し遂げられるのです。個人の意志の力、決意や意欲、効果的な計画や目標設定は必要ですが、この現世

の旅を成功のうちに終えるには最終的には十分ではありません。実に、わたしたちは「聖なるメシヤの功德と憐れみと恵み」に頼るようにならなければならないのです(2 ニーファイ 2:8)。

恵みと、贖罪が持つ 人に能力を授ける力

『聖書辞典』(Bible Dictionary)によると、聖典では恵みという言葉がよく「人に能力を授ける力」という意味で用いられていることが分かります。

「〔恵み〕という言葉は新約聖書に、特にパウロの書簡に頻繁に出てくる。この言葉はおもに、人に助けと力を授ける天の手段や方法を意味し、それらはイエス・キリストのあふれる憐れみと愛を通して与えられる。

主イエスの恵みを通して、主の贖いの犠牲により人類は不死不滅によみがえることが可能になっており、全ての人が永遠に生きる状態で墓から肉体を受ける。同様に、主の恵みを通して、人はイエス・キリストの贖罪を信じる信仰をもって自らの罪を悔い改めることにより、自分の力だけでは続けることのできない善い行いをする力と助けを受ける。この恵みは人に能力を授ける力であり、これによって男性も女性も、最善を尽くした後に永遠の命と昇栄を得ることができる。」(Bible Dictionary, “Grace”の項;強調付加)

恵みは、わたしたち一人一人が日の栄えの王国にふさわしい者となるためにぜひとも必要な神の支援であり、天からの助けです。このように、贖罪が

持つ人に能力を授ける力は、善を行い、善人になり、自分自身の望みや本来の能力を超えた働きができるようにわたしたちを強めてくれるのです。

わたしは個人の聖文研究の際に、恵みという言葉を見つけたら「人に能力を授ける力」と書き込むようにしています。例えば、わたしたちが皆よく知っている次の聖句について考えてみてください。「わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に、神の恵みによって救われることを知っている〔。〕」(2 ニーファイ 25:23) 聖文に恵みという言葉を見つけるたびに「人に能力と強さを授ける力」と書き込むなら、贖罪のこの重要な側面について多くのことが学べると信じています。





ニーファイの模範

現世の旅は、悪人から善人に、そしてより善い人になる旅であり、自分の性質そのものを変える旅です。モルモン書には、弟子や預言者がそれぞれの旅で、贖罪が持つ人に能力を授ける力について知り、理解し、その力によって変化を遂げた例がたくさん載っています。わたしたちはこの神聖な力について理解を深めるにつれて、福音に即した視野が大いに広がり、深まります。そのような視野を得るとき、わたしたちは驚くような変化を遂げるようになります。

ニーファイは救い主が持っておられる人に能力を授ける力について知り、理解し、その力に頼った人物の一人です。リーハイの息子たちがエルサレムに戻り、イシマエルとその家族を約束の地に向かう旅の一行に招いたときのことを思い出してください。エルサレムから再び荒野に戻る旅の途中で、一緒に旅をしていたレーマンたちが背き、ニーファイは主を信じる信仰を持

つように兄たちに勧めました。そして旅のこの時点で、兄たちはニーファイを縄で縛り、殺そうとします。ニーファイの祈りに注目してください。「おお、主よ、あなたを信じるわたしの信仰により、兄たちの手から救い出してください。まことに、わたしを縛っているこの縄を断ち切る力をお与えください。」(1ニーファイ7:17, 強調付加)

もしわたしが自分の兄弟たちに縛られていたとしたら、たぶん何を祈り求めていたか分かりますか。「この窮地から今すぐ救い出してください!」と祈っていたことでしょうか。特に興味深く思うのは、ニーファイが状況を変えてくださいとは祈らなかった点です。それよりも、状況を変える力を祈り求めたのです。ニーファイがこのように祈ったのは、贖罪が持つ人に能力を授ける力について知り、理解し、身に受けていたからにはほかならないと、わたしは信じています。

ニーファイを縛っていた縄が魔法のように手首から落ちたわけではないと

思います。そうではなく、ニーファイは祝福されて本来の能力を超えた粘り強さと身体的な強さの両方を授かり、「主の力を受けて」(モーサヤ9:17)、縄をねじったり、引っ張ったりしながら苦勞した末に、文字どおり縄を断ち切ることができたのではないのでしょうか。

この出来事がわたしたち一人一人に伝えていることは明快です。皆さんもわたしも、贖罪が持つ人に能力を授ける力について理解し、その力を自分の生活で用いるようになるとき、状況が変わるように祈るのではなく、状況を変える力を祈り求めるようになるでしょう。受け身でいるのではなく、自ら選択し行動する者になるでしょう(2ニーファイ2:14 参照)。

救い主は御存じであり、理解しておられる

アルマ書第7章からわたしたちは、救い主が「人に能力を授ける力」をお与えになることができる理由とその方法を学べます。

「神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。」

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:11-12。強調付加) 救い主はわたしたちの罪悪のためだけでなく、実に頻繁にわたしたちを悩ます

不平等や不公平, 苦痛, 苦悶^{くもん}, 情緒的な苦悩のためにも苦しめました。

皆さんやわたしが現世の旅で経験する肉体的な痛み, 心痛, 精神的な苦しみ, 病や弱さのうち, 先に救い主が経験なさらなかったものは一つもありません。皆さんもわたしも, 自分の弱

さに悩むとき, 「誰も理解してくれない。誰にも分からない」と声を上げることがあるかもしれません。分かる人間は恐らくいないでしょう。しかし, 神の御子は全てを御存じであり, 完全に理解しておられます。わたしたちが経験するより先に, わたしたちの苦し

みを味わい, 重荷を負われたからです。そして主は究極の代価を払いその重荷を負われたので, わたしたちの人生の実にさまざまな局面で, わたしたちの気持ちを完全に理解し, 憐れみの腕を伸べることがおできになるのです。主は手を差し伸べ, 心に触れ, 助けることがおできになり, 文字どおりわたしたちに駆け寄って, わたしたちが自分では決して得られないほどの強さを与え, 自分自身の力だけに頼ったのでは決してなし得ないことを行えるように助けてくださるのです。

「すべて重荷を負うて苦労している者は, わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから, わたしのくびきを負うて, わたしに学びなさい。そうすれば, あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく, わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28 - 30)

わたしは主イエス・キリストがささげてくださった無限にして永遠の犠牲について証^{あかし}し, 感謝を表します。わたしは救い主が生きておられることを知っています。これまでに主の贖いの力と, 人に能力を授ける力の両方を身に受けてきました。これらの力が実在し, わたしたち一人一人が受けられるものであることを証します。現世の旅を歩みながら, わたしたちは確かに「主の力を受けて」全てのことを成し遂げ, 全てのことに打ち勝てるのです。■

「贖罪と現世の旅」『リアホナ』2012年4月号, 12 - 19から抜粋





中央若い男性会長会
第二顧問
ランドール・L・リッド

誰が準備ができてい 決めつけない

誰が福音を受け入れる
準備ができてい
誰にも分かりません。

高校を卒業してから40年目の同窓会の夕食会での出来事は、いつまでも忘れられないでしょう。何年も会っていない級友に会い、卒業してから皆がどのような人生を送ってきたのか知るのを楽しみにしていました。

8人か10人の級友とテーブルを囲んで夕食を食べ、おしゃべりを楽しんでいたとき、古くからの友人のグレッグ・リンクが、20代のときにバプテスマを受けて教会に入ったと言いました。

それから心を突き刺すような質問をしました。「高校生のとき、君たちは誰もほくにモルモン書をくれなかったけど、どうしてだい？ ほくが教会向きじゃないと思ってたんじゃないかい？」

もう一人の、教会員でない、旧友が言いました。「ほくの1冊あげたのに。ほくは50冊ぐらいもらったよ。」

わたしはがく然としました。高校生の頃、グレッグが将来バプテスマを受け、人を鼓舞する話し手として成功すると言われたら、きっと信じなかったことでしょう。グレッグのことは大好きでした。友情に篤く、困ったときには頼りになる友でした。しかし、パーティー好きなのを知っていましたが、しょっちゅう問題を起こしていました。教会に少しでも興味を持っているとは、夢にも思いませんでした。面白いことに、もう一方の友人については、いつか教会に入るだろうと信じ、福音を伝え、モルモン書もあげていたので、実際のところ、誰が福音を受け入れる準備ができていて、誰がそうでないかなど、誰にも分かりません。

グレッグと話した後、少し恥ずかしくなりました。他の多くの人のように、わたしも彼に福音を紹介しなかったからです。どのようにして教会に入るようになったのか尋ねてみました。以下は彼の話です。



家族でユタ州のソルトレーク・シティーに引っ越してきたとき、わたしは11歳ぐらいでしたが、24歳になるまで教会には入りませんでした。今考えると、誰も福音をわたしに伝えなかったのもっともなことでした。表面的には、すばらしい求道者ではなかったからです。実際のところ少々乱暴な子供でした。よくけんかをしたり、学校で問題を起こしていました。

末日聖徒の友人はたくさんいましたが、教会について話したのは一人だけでした。それだって、彼が子守りしながらモルモン書を読んでいるのをわたしがからかったからでした。

けれども、いろいろなことに興味を持っていました。わたしは母に連れられて、近くにあるキリスト教会に行っていました。あるとき、イエスはなぜアメリカ大陸においでにならなかったのかとその教会の人たちに尋ねたことがありました。そんな質問をしたわたしは失笑を買い、以来一切その件で質問をしなくなりました。

それから何年もたったある日、わたしはソルトレーク・シティーにあるテン

プルスクウェアの訪問者センターに行ってみることにしました。そこにはアメリカを訪れられたキリストについてのジオラマがありました。ふと、若かったとき、そのことについて疑問に思ったことを思い出しました。御霊がわたしに強く働きかけ、耳を傾ける準備ができたこと知ったのはそのときでした。

高校時代の友人の模範を忘れたことはありませんでした。実際、一番尊敬していたのは末日聖徒だったのです。ランディー・リッドと奥さんは二人とも、わたしと同じ学校に行っていました。二人はいつもすばらしい模範で、とても良い人でした。そのことが後になって大きな影響を及ぼしました。「ランディーが本当だと信じるなら、大事なことに違いない」と思ったのです。

高校時代にもっと福音について話してくれたらどうなっていたか、わたしには分かりません。そのときは聞く準備ができていなかったかもしれません。でも、今考えると、話してほしかったと思います。きっと何らかの影響を与えてくれたことでしょう。

自分の模範がグレッグに良い影響を与えていたことに本当に感謝します。けれども、当時何か行動を起こしていたら、喜びはもっと大きかったはず。福音を分かち合っていたら、モルモン書をあげていたら、あるいはせめてグレッグを活動に招待していたら、彼の人生は変わっていたかもしれないのです。もっと早く教会に入っていたかもしれません。伝道に出る機会もあったかもしれません。

良い模範になることは本当に大切ですが、福音を分かち合う責任も同じく大切な責任であること

をわたしは学びました。主は福音を伝えるよう命じておられます。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ16:15)

ですから、分かち合うことを恐れなくてください。何よりも、誰が準備ができていて、誰がそうでないか、早々と決めつけないことです。誰の心が和らげられていたかを知って驚くかもしれません。その人の関心は、あなたには見えない深い所に秘められているかもしれないのです。■



主はその子供たちを備えられる

「主は御自身の全ての子供たちを愛しておられます。主は全ての子供たちが御自分の真理を全部手にし、御自身が持つておられる祝福を豊かに受けることを望んでおられます。主は一人一人がいつ準備できているのか御存じです。そしてわたしたちに対しては、福音を分かち合うことに関する指示を聞いて、それを心に留めるよう求めておられます。わたしたちが自分の分を果たしているならば、準備のできた人々から『わたしの羊はわたしの声に聞き従う。……彼らはわたしについて来る』と言われた御方のメッセージに応じていくことでしょう(ヨハネ10:27)。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老
「福音を分かち合う」
『リアホナ』2002年1月号, 9

勇気を出して 福音を伝える



知らない人に福音を伝えるのは勇気の要ることです。伝道に出たばかりの専任宣教師に聞いたら分かります。でも、教会や、モルモン書や、わたしたちの信条について知りたいかと友達に尋ねる方が、もっと勇気が要ることがあります。

それはこう考えてしまうからです。もし関心がなかったらどうしよう。気分を害したらどうしよう。からかわれたらどうしよう。わたしのことが大嫌いで二度と顔を見たくないと言われたらどうしよう。

心配しないでください。そんなことが現実にかかることは、まずありません。多分友達は、「ううん、別に」と言うだけでしょう。でも、「いいよ。もっと話を聞かせて」と答える人が

いても驚かないでください。あなたが福音に従った生活をしているなら、なおさらです。

十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老はこう言っています。「わたしたちは回復されたイエス・キリストの教会の会員です。主御自身から権限を与えられ、真理を求め、全ての人を見いだし、養い、主の教会に無事に連れ戻すよう世に送り出されたのです。」

その観点から見ると、福音を伝えることは「簡単で明快」です。しかし、バラード長老は「伝道が努力を要する、時には恐ろしい経験である」と認めています。

どうしたらその恐れに打ち勝つことができるのでしょうか。バラード長老は次の3つの方法を提案しています。

第1に、福音を伝える方法を見いだすのを主が助けてくださるように個人や家族で祈ってください。（補足記事の、ブラジルのある若い女性の例を参照してください。）また、準備のできている人々のもとへ導かれるよう主に願い求めてください。



2番目に、模範となってください。ふさわしさの標準が下がりが続ける世にあって、友達は皆さんの放つ光に気づくでしょう。皆さん個人の証が^{あかし}勇気と霊的な力をくれるはずで



3番目に、信仰を働かせ、主を信頼してください。そして、いつも人に愛を示すようにしましょう。



バラード長老はこう言いました。「このように言う会員もいます。『誰かの気分を害するかもしれないので、福音を伝えることを恐れています。』経験から分かることは、愛と関心によって伝えるのであれば、気分を害する人はいないということです。『教会から助けられていることに喜びを感じます。』このような言葉と、御霊の導くままに語られた言葉を耳にして、気分を害する人がいるでしょうか。」¹

福音を伝えるという義務は、皆さんを含む全ての教会員に与えられています。ですから、勇気を持ちましょう。そうすれば、主が皆さんの努力を祝福してください。■

注

1. M・ラッセル・バラード「会員伝道のきわめて重要な役割」『リアホナ』2003年5月号, 38, 39 - 40



信者の勇気

「確固とした勇気をもって、使徒パウロとともに宣言しましょう。『わたしは〔キリストの〕福音を恥としない。』（ローマ 1:16) そして、その同じ勇気をもって、パウロの勧告に従いましょう。『言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。』（1テモテ 4:12)」

トーマス・S・モンソン大管長

「強く、また雄々しくあれ」『リアホナ』2014年5月号, 69

一番大切な物

マリアナ・サントス

複数のステーキの合同ユースカンファレンスで、一人一人にモルモン書が配られ、誰かにあげるように勧められました。わたしは大好きなポップス歌手にあげたいと思いました。

彼のコンサートがわたしの町であると知ったとき、絶好の機会だと思いました。彼のコンサートでは毎回、抽選で15人のファンが選ばれ、バックステージで彼に会えることになりました。選ばれるのは不可能に近いですが、とにかく申し込んでみました。

コンサートの数週前に、モルモン書に証^{あかし}を書き、祈りました。選ばれる可能性が低いので天の御父の助けが必要なのです、と御父に説明しました。

「アーメン」と言うやいなや、携帯電話が鳴りました。歌手の事務所からでした。抽選に当たったのです！

コンサート当日、バックステージで、わたしは歌手にモルモン書を贈りました。彼はモルモン書を開けて、わたしの証を読みました。「何か価値があって役に立つものをプレゼントしたいと思って随分考えました。そこで、値段ではなく、内容に価値のあるものをあげるべきだと気づきました。これはモルモン書です。わたしの持っている物の中で一番大切な物です。これを読めば、あなたにとっても大切な物になるでしょう。」

歌手はわたしを抱き締め、きっと読むと言ってくれました。わたしは涙をこらえることができませんでした。

有名人にモルモン書をあげるというのは、めったにない経験です。でも、モルモン書をあげるという行為は、日常的な経験にならなければなりません。学校の友達や、近所の人や、他の誰かに、あのモルモン書をあげることもできたと思います。

モルモン書をあげたり、証をしたり、教会について話したり、模範を示したりすることは、わたしたちの義務なのです。イエス・キリストの福音を伝えることを決して恥じるべきではありません。

筆者はブラジル、マナウス在住です。



忘れないでください 選ぶのは彼らです

選択の自由は
全ての人に適用されます。
皆さんが教会について学ぶよう
勧める相手にも
選択の自由はあるのです。



福音を学ぶよう勧めるとき、相手にはあなたの招きを受け入れるかどうかを選ぶ選択の自由があると理解しておくことが大切です。皆さんの成功はその人がどう応えるかによって測られるわけではありません。福音を伝える皆さんの決意の有無によって測られるのです。

誰が招きを受け入れたか、あるいはバプテスマを受けたかで成功が測られないとすれば、伝道活動の目標を設定する際に重視すべきことは何でしょうか。人がどう応えるかより、自分に何ができるかを考えましょう。皆さんにも選択の自由があることを忘れないでください。皆さんは次のようなことを選択することができます。



頻繁に、そしてみんなを招く。

福音に関心がある人となない人を前もって知るのとは不可能ですから、たびたび、できるだけ多くの人に伝えてください。そのとき、御霊のささやきに特に注意を払いましょう。真理を学び受け入れるよう人々を招くとき、わたしたちは宣教師として成功します。

親しい関係を続ける。

もっと学ぶようにという招きを断られても、礼儀正しく思いやりのある態度を崩さないようにしてください。高い標準のある人とは友人関係を続けましょう。皆さんが信じ行くことを全部理解していない人でも、できる限り全ての人にキリストのような愛を差し伸べてください。

忠実であり続ける。

救い主はこう雄弁に教えておられました。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:16)福音を愛し、福音に従って生活してください。そうすれば、遅かれ早かれ、どうして皆さんがそうなのか知りたいと思う人々や福音を受け入れる準備のできている人々を見つかるはずですよ。



信仰を分かち合う

「わたしたちは各人の選びと時機を尊重します。主は、『各人に自ら選ばせなさい』と言われました(教義と聖約 37:4)。関心を示さないからといって、友情や愛のきずなを弱くする必要はありません。『来て、見てください』と招くときにその招きを受け入れられても受け入れられなくても、皆さんは、主の承認を感じ、またその承認を得て何度も信条を分かち合うためのさらなる信仰を感じることでしょ。」

十二使徒定員会 ニール・L・アンダーセン長老
「これは奇跡です」
『リアホナ』2013年5月号, 79

宣教師として成功するには

宣教師として成功するヒントをお探ですか。『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』の10ページから11ページにある10のすばらしいアイデアを読んでみましょう。

根気よく続ける。

右の物語にあるように、機が熟して受け入れられるまで何度も招かなければならない場合もあります。門戸を開き続け、親しい関係を保ってください。そして、がっかりしないことです。主は皆さんの努力を御存じで、祝福して下さいます。(教義と聖約 98:2 参照) ■

繰り返し招きました

メイリー・スサナ・ダ・シルバ・ロサ

福音を分かち合う必要があると知っていましたが、それまで成功したためしがありませんでした。そんなとき、受講していたスペイン語のクラスでティアゴという名の青年に出会いました。仲良くなったわたしたちは、学校から一緒に帰ることが多くなりました。ある日、新築されたばかりの末日聖徒の集会所の横を通りかかりました。

「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になって数年になるんだ」とわたしは言いました。わたしたちの信条をいくらか紹介し、福音のおかげで自分と家族がどれほど祝福されてきたかを話しました。次の日曜日の朝9時に集会があるので出席しないかと彼を招きました。

日曜日になり、わたしは彼が来るのを心待ちにしていたのですが、来ませんでした。その週、もう一度招きました。2、3か月の間、毎週これが繰り返されたのです。彼はいつでも来なかった理由を言いました。「寝坊したんだ」「疲れていたから」「ちょっと問題があつてね」というように。それでも、わたしは招き続け、彼もそれを嫌がっている様子はありませんでした。

ある日曜の朝、わたしは礼拝堂の後ろのベンチに腰掛けました。集会が始まるまであと数分というときに、誰かが静かにわたしの名前を呼ぶのが聞こえました。ドアの方を見ると、ティアゴがいるではありませんか!

「いつか行行って約束したろう」と彼は言いました。彼は聖餐会せいさんに出席し、驚いたことに、他の集会にも残ってくれました。そして、宣教師に紹介したとき、うれしそうに見えました。彼は定期的に宣教師から福音を学び始めましたが、彼が学んでいる真理まことについて話し合うようになりました。わたしは質問に答え、証あかしを述べることができました。とうとう彼は自分の証を得、教会に入りました。

今わたしは専任宣教師としてブラジル・サンタマリア伝道部で奉仕しています。伝道地に向けて出発する前に、ティアゴも専任宣教師になるために申請書を提出し、現在ブラジル・マナウス伝道部で伝道しています。

最近彼から手紙をもらいました。「教会に来るように繰り返し招いてくれてありがとう」と書いてありました。「感謝の気持ちでいっぱいだ。」毎日福音を分かち合えるだけでなく、ティアゴも同じ業に携わっていると知っていることをとてもうれしく思います。

筆者はブラジル、サンパウロ出身です。

ここで紹介する11の簡単な方法を使って、
日々の会話の中で福音を伝えましょう。

誘い、 フォローアップ する

福音を誰かに伝えたいと思いつつも、どうすればいいのかわからない人はいませんか。これは、そんな人のための記事です。福音を伝えるとは、宣教師に会ってみたいかと友達を誘うことだけではありません。それはすばらしいことですが、「人々にキリストのもとへ来るよう勧める」ためにあなたにできることがあります。そして、それはあなたが考えるほど難しいことではありません。サッカーに例えると理解しやすいかもしれません。うまい選手は、試合が有利に進むように味方のチームメイトにボールをパスします。その方法とタイミングを心得ているのです。福音について学ばないかと人を誘うのは、ボールのパスと似ています。違うのは、ゴールを決める機会を提供する代わりにキリストのもとに来る機会を提供することだけです。この記事では、取りかかるためのヒントをいくつか挙げます。靈感を求めて祈り創造力を発揮して、これから挙げるヒントを皆さんの友達の関心事や状況に合わせて活用してください。そして、友達を助けましょう。



ミューチャルに誘う

スポーツに没頭している友達がいたとします。その場合、今週のミューチャルがスポーツナイトだという話を聞いたら、それは、その友達を誘って一緒に参加するチャンスです。

一緒に総大会を見ないかと誘う

学校に行く途中、歩きながらMP3プレーヤーで総大会の話を聞いていたところ、何を聞いているのかと、友達から聞かれたとします。神の生ける預言者の言葉を聞いている、と正直に答えると、「それ、どういう意味」と聞かれます。あなたは現代の預言者や使徒について説明したうえで、4月にその指導者たちが話すので、一緒に聞かないかと誘います。

『リアホナ』の記事を見せる

『リアホナ』の最新号を読んでいて、友達の一人と交わした会話を思い出したとします。その『リアホナ』（またはオンラインのリンク）をその友達に見せて、記事を読むよう勧めてください。

モルモン書について話す

ワードの今年の目標が年末までにモルモン書を読むことだとします。皆さんは聖典を学校に持って行きます。友達の一人がモルモン書に目を留めてこの本は何かと聞いてきたら、モルモン書は何か説明し、モルモン書の証^{あかし}を伝えてください。

この記事にあるケネスの話を後で読み、モルモン書を持っている人を学校で見てケネスがどうしたかを確認してください。



誘い、フォローアップする

「主を信頼し、信仰をもって、ともに協力し、一人を見つけ、勧め、フォローアップに努めるときに、主はほほえんでくださり、何千何万という神の子供たちが末日聖徒イエス・キリスト教会に目的と平安を見いだすようになることを証します。」

十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老
「フォローアップ」
『リアホナ』2014年5月号, 81

教会のダンスに誘う

一番の友達が今度の金曜日に一緒に出掛けないかと誘ってくれたのに、その日の夜は教会のダンスがあったとします。ただ誘いを断るのではなく、その友達をダンスに誘いましょう。

友人を教会に誘う

日曜日にレッスンの一部を教えるように頼まれているとします。週末どうするのかと友達に聞かれたら、日曜日の予定を隠すのではなく、教会でレッスンの一部を教えることになっていると説明します。友達が興味を持ったなら教会に誘い、自分がレッスンするところを見せてもらいましょう。

Mormon.org を見せる

友達があなたの信仰に非常に興味を持っているとします。Mormon.orgを見せて、友達が疑問を解消できるようにしましょう。



改心の道への小さな一歩

新しい学校に初めて行った日、わたしは他の人と違った女の子がいることに気づきました。彼女は家庭環境が悪く、いつも他の生徒たちからかわれていました。ロッカーが隣だったので、彼女の事情はすぐに分かりました。いい子でしたが、悪態をつく癖がありました。

わたしは彼女に、わたしの信じていることと、『若人の強さのために』で教えられている標準について説明しました。彼女は非常に興味を持ちました。わたしは彼女をミュージャルに誘い、何度か一緒に出席しました。すると彼女は、悪態をつく癖を克服しようと一生懸命に努力するようになりました。

結局わたしは彼女に、『若人の強さのために』と『真理を守る』を1部ずつ渡しました。翌日学校で、この2冊から新しいことをたくさん学んだと彼女に言われました。その晩彼女をミュージャルに誘い、終了後片付けをしていると、「わたし、バプテスマを受けられるかしら」と彼女が言うのです。

わたしはびっくりしてしまいました。わたしは人を教会に導いたことなどありませんでした。わたしは、しばし立ち尽くしました。口も利けなかったのです。でも、やっとのことで彼女の手を引いて、若い男性会長会のところまで連れて行きました。宣教師と連絡を取れるよう会長会の人々が助けてくれたので、彼女はバプテスマの準備を始めることができるようになりました。

この友達がバプテスマの決意を固めたとき、わたしはとても大きな喜びを感じました。彼女が改心の道を歩めるよう助けになれたことを思うと、とても良い気持ちを感じます。わたしは同じ道をその他の人たちにも歩んでもらうためにどうしたらよいか、直ちに考えるようになりました。

ハンナ・クリステンセン (合衆国, アイダホ州)

携帯メールで聖句を送る

朝の聖文研究で、最近試練に遭っている友達にとって本当に役に立つ聖句に出会ったとします。その友達に携帯メールを送り、あなたがその友達のことを考えていて、その友達が喜ぶような聖句を見つけたことを伝えましょう。

夕食に招く

今週、父親が得意のスパゲッティ料理をすることになっているとします。あなたの学校には、転校してきたばかりの生徒がいます。その生徒にまだあまり友達がいないことに気づいたあなたは、家の夕食にその友達を招待することにします。月曜日であれば、食事の後の家庭の夕べに誘うこともできます。

『成長するわたし』や『神への務め』を達成する助けを友達に頼む

大きなプロジェクトを計画していて、誰かの助けがないとできないことが分かったとします。そんなとき、会員でない友達に頼むことにしてください。奉仕する理由を説明する機会になるかもしれませんし、一緒に楽しく奉仕することができるかもしれません。

『若人の強さのために』をあげる

なぜ、一定の標準に従った生活をしているのかと聞かれたら、『若人の強さのために』を渡して、標準に従ったおかげで幸せを感じていることを話します。

この記事にあるハンナの話を読んで、この冊子をどのようにして友達に渡したかを確認してください。



わたしが信じている宗教について知りたいの？

エイプリルはどこか違いました。どこが違うと具体的に言うことはできないのですが、それが何であれ、彼女は良い意味で違っていたのです。やがてぼくは、彼女が末日聖徒だということを知りました。

ある日、昼食時にテーブルの空いている席に腰かけました。人はいなかったのですが、本が何冊か積み重ねてあり、一番上の本はモルモン書でした。ぼくは手を伸ばしてモルモン書を手に取りました。

「君の本を見ているんだけど」と、数分後に昼食のトレイを持って戻ってきたエイプリルに言いました。彼女は「いいわよ」と言いましたが、驚いた様子でした。

2、3ページ読むと、その先が読みたくてたまらなくなりました。ぼくは神は

信じていましたが、自分はどちらかという科学を信じる人間だとも考えていました。ところが、モルモン書に書かれていることは真実ではないかと感じたのです。ここに書かれているのは本当に起こったことではないかと思いました。そして、もしこれが本当だったとしたら、どうなるのだろうか、そう考えるといつもたってもいられなくなりました。

昼休みが終わると、その本をエイプリルに返し、次の授業に行きました。モルモン書で読んだことに対する熱い気持ちは冷めませんでした、エイプリルにそのことを話す勇気はありませんでした。

2、3週間後、自習時間にエイプリルの方から、真剣な表情で話しかけてきました。「あなたは本当に、わたしの信じている宗教に興味があるの」とぼくに聞くので、そうだ、と正直に答え

ました。すると、「今度の金曜日、教会について知りたい人たちのための特別な集会があるの。あなたなら行きたいって言うかと思って」と言います。

ぼくは行きたいと言いました。その集会では、教会の幾つかの基本的な教義について、伝道部長が説明してくれました。話されること全てについて、そのとおりだとぼくは思いました。間もなく、ぼくは宣教師から福音を学ぶようになりました。すぐに改心したわけではありませんが、断食して祈ってから、証^{あかし}を得てバプテスマを受けました。

この回復された真理を知らなかったとしたら、ぼくの人生は大きく違っていただことでしょう。人生が変わってよかったと思います。

ケネス・ハースト
(アメリカ合衆国、アラバマ州)

忘れずにフォローアップする

誘ったら、次のステップは、フォローアップ、つまり後で確認し励ますことです。サッカーでは、優秀な選手の仕事はボールをパスしたら終わりではありません。動き続けて、どんな事態にも対応できるようにしなければなりません。

フォローアップするとは、あなたが送った聖句を読んでクラスメートがどう感じたか尋ねたり、一緒に教会に行った友達がどう感じたか尋ねたりすることです。

後で確認し励ましてもらったおかげで一人の若者の人生が変わった例については、ケネスの話²を参照してください。

自分の信じていることを学ぼう友達を誘った後で確認し励ますとは、その友達の幸せを心に掛けていることの表れです。友達は、あなたが自分のことを心から助けようとしていると感じ取り、その後はさらに、あなたに質問しやすくなるでしょう。■



これは、ルイサが
話してはいけない
ひみつだったのでしょか。

ひみつ

きょうかい きかんし
教会機関誌

デビッド・ディクソン

ほんとう はなし か
本当にあったお話をもとに書かれました。

あたらしゅ おし みな とも あい あ
新しい主の教え「皆、共に愛し合え」

(「共に愛し合え」『賛美歌』192)

チヤイムが鳴ったとき、ルイサは算数の本をとじました。この1時間、全然問題に集中できませんでした。

他の生徒はみんないっせいに外にかけ出しました。それが金曜日の最後の授業だったのです。ルイサも普通だったら、1週間が終わってわくわくするのですが、今日はそういう気持ちになれず、心配でたまりませんでした。昼休みのことでした。親友のカーロッタが、「ひみつを守る？」と聞いてきたのです。

そのとき、ルイサは顔を近づけると、大きくうなずきました。ルイサは、ひみつを守るのは得意でした。きっとカーロッタは自分が夢中になっているかっこいい男の子のことを話してくれるのだろうとルイサは思っていました。

でも、カーロッタのひみつは全然楽しい話ではありませんでした。

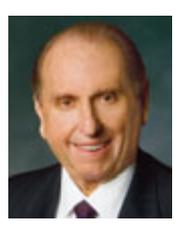
ルイサが考えこんでいると、声が聞こえてきました。

ルイサはまばたきして、つくえから目を上げました。

「宿題について何か質問があるの？ ルイサ。」先生が聞



話を話す



「友は親切で、愛を示し、
耳を傾け、手を差し伸べ
ます。」
トーマス・S・モンソン大管長
「救助に向かう」
『リアホナ』2001年7月号, 59

いてきました。他の生徒たちはみんな、教室から出て行った後でした。

「いいえ」とルイサは答えました。先生と目が合いました。絶対にだれかに話さなくてはいけないと思いました。でも、カーロッタからは「だれにも言わないと約束して」と言われたのです。

ルイサはあわてて、「バスに乗りおくれちゃう!」と言ってコートを着ると、冷たい冬の空気の中に急いで出て行きました。

帰りのバスに乗っている間中、ルイサは心が落ち着かず、いてもたってもいられない気持ちでした。むねがしめつけられて、息をするのがむずかしいほどでした。

ルイサはカーロッタのひみつのことばかり考えてしまいました。昼休みに、カーロッタはとてもあぶないことをしていることを打ち明けてくれたのです。ルイサは今でも、そのとき聞いたことが信じられませんでした。親友のことは何でも知っていると思ったのに、そうではありませんでした。カーロッタがそんなにこわいことをしているなんて、想像もできませんでした。昼休みが終わって、ルイサはカーロッタにたのまれて、絶対にだれにも言わない

と約束しました。

でも、もしカーロッタがあぶない目にあつたらどうすればよいのでしょうか。

ルイサは、バスで自分の周りにすわっている人たちの笑い声や話し声を聞かないようにして、目をとじて心の中でのいりました。

「どうか、天のお父様、どうしたらよいか教えてください。友達をおこらせたくはありません。でも、友達にあぶない目にあってほしくないのです。イエスキリストのみなにより、アーメン。」

家まで歩いて帰る道が、いつもより長く感じられました。ルイサが家に帰ったら、いつもと様子がちがうことにお母さんが気づいてしまわないでしょうか。お母さんから何と言われるでしょうか。

地面に積もった雪を見ながら、ルイサは先週公園で、カーロッタや他の友達と雪合戦をしたことを思い出しました。すごく楽しかったのです。カーロッタと二人です、大好きなことについても考えました。二人でぶらぶらしたり、ハイキングに行ったり、宿題をしたり、スポーツをしたりするのが大好きです。

もしひみつをばらして、カーロッタから絶交されたらどうしたらよいのでしょうか。そう考えると、もっと胃がきりきりして

きました。

そのとき、別の考えがうかびました。今一番大切なのは、カーロッタがルイサのことをどう思うかではなく、カーロッタにとって一番良いのは何かということでした。カーロッタには、本当の友達、安全でいられるように助けてくれる友達が必要です。イエス様はたとえ人からきらわれても、他の人のために一番良いことをされたことを、ルイサは知っていました。

ルイサは、どうするべきか分かりました。お母さんに話した方がいいと思いました。カーロッタにも電話して、どんなに心配しているかや、大人の人に助けてもらった方がいいことを伝えようと思いました。もしかしたら、カーロッタもお母さんに話すかもしれません。

玄関に向かって歩いて行くにつれて、ルイサの心は軽くなっていきました。

「お母さん?」家に入り、よびかけました。「話してもいい?」

カーロッタはおこるかもしれないけれど、ルイサはそれが正しいことだと知っていました。本当の友達ならそうするだろうと知っていたのです。

大切だからこそ、だまってはおけないひみつもあるのです。■

いつ はな 話すべき ですか



もしもだれかが——

あぶないゲームをしていたら
自分の物でない薬を飲んでいたら
変な物を食べたり、飲んだり、かいていたりしたら
自分の体をきずつけていたら
大人の人に知られるといけないことをしていたら

もしもだれかが——

上に書かれているようなことをあなたにさせようとしたら
服を着ていない人の写真をあなたに見せてきたら
その人の体を見たりさわったりするように言ってきたり、あなたの体を見たりさわったりさせてほしいと言ってきたりしたら
いやな気持ちができることを聞かされて、それをひみつにしておいてほしいと言われたら
あなたや他の人が、直接、またはメールやインターネットで、いじめられたり、ひどいことを言われたりしたら

もしも——

きけんだと感じたり、いやな
気持ちがしたりしたら
何か間ちがっていると思えたり、そのままにしておいては
いけないという気持ちを感じたりしたら

せいに耳をかたむけて、
自分の感じた気持ちを信頼してください。

だれに話せばよいのでしょうか。

お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさん、ほご者
学校の先生やスクールカウンセラー
教会の教師や指導者
お兄さんやお姉さん
お医者さん
大人の人に話せるように助けてくれる友達

ひみつをかかえて一人ぼっちだと感じる必要はありません。大人の方は、あなたがどうすればよいか分かるように助けてくれます。必要な助けが得られるまで、いろいろな人に話してください。

勇気を出してください！ あなたは強い人です。きちんと声に出して話すことで、あなたも周りの人も安全でいられます。■

とく べつ な しょう にん
特別な証人



じゅうに し と だいいんかい
十二使徒定員会
ロバート・D・
ヘイルズ長老

じゅうに し と だいいんかい かいりん
十二使徒定員会の会員は、
イエス・キリストの
とくべつ しょうにん
特別な証人です。

わたしたちはなぜそう大会を 聞く必要があるのでしょうか。



イラスト/アンドロリュー・ボスリー

そうたいかい
「総大会 —
信仰と証を強める」
『リアホナ』
2013年11月号、6-8から

みなさんが
耳をかたむけるなら、
みたまを感じることを
約束します。

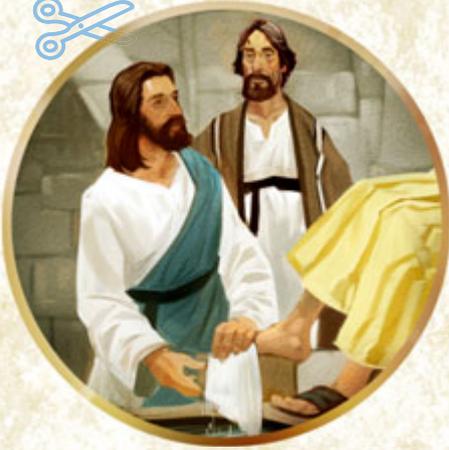
わたしたちに向けて
語られた主の言葉を
聞くことができます。

そう大会を通して、
わたしたちの信仰は
さらに強められ、
あかしはさらに深まります。

そう大会の
メッセージを通して
天のおん父の声を
聞きたいと心から願うなら、
おん父がみなさんを
助けるために
語ってくださったということが
分かるでしょう。

ふっかつさいの

イエス・キリストは、わたしたちが し
たがえるように かんぜんな もは
んを しめされました。この かつどうを
通して、イエスについて もっと 学び、
ふっかつさいの じゅんびを することが
できます。ふっかつさいの 前の 日曜日
に、1番から はじめましょう。毎日、イ
エスについて 読んで、しつものに 答えま
しょう。そして、かんけいのある 絵を
切りとって、ひょうに はります。



1. イエスは でしたちの 足を
あらい、つぎのように なぐさ
めの ことばを おかけになり
ました。「あなたがたは 心を
さわがせるな、また おじける
な。」(ヨハネ 14:27) 今日、
友だちに つかえ、友だちを
なぐさめるために、どんなこと
が できますか。

2. さいごの ばんさんの 間、イエスは
でしたちに せいさんを とるよう
にお教えに なりました。イエスは 言
われました。「わたしを きねんする
ため、このように 行いなさい。」(ルカ
22:19) せいさんの 間、もっと
けいけんになるために、どんなことが
できるでしょうか。一つ 考えてくだ
さい。



3. イエスが ゲツセマネの そので
あがないの わざを はじめられ
たとき、それは とても むずかし
いことでしたが、天の お父さま
が のぞんでおられることを さ
れました。イエスは いのられま
した。「わたしの 思いではなく、
みこころが なるように してくだ
さい。」(ルカ 22:42) 教会や
学校や 家で もっと じゅうじゅ
んになるために、どんなことが
できますか。

じゅんびをする

4

4. イエスが じゅうじかに おかかりになり、
人人に くるしめられているとき、イエスは
こう 言われました。「父よ、かれら
を おゆるしてください。かれらは 荷を
しているのか、わからずにいるのです。」
(ルカ 23:34) なぜ 人を ゆるすこと
が 大切なのでしょう。



5. イエスは ご自分が なくなられた後、お
母さんのことを かならず せわしてくれ
るように 人人に おつたえに なりまし
た。イエスは ヨハネに 言われました。
「ごらんささい。これは あなたの 母
です。」(ヨハネ 19:27) あなたは、お父さ
んや お母さん、また あなたの めんど
うを 見てくれる人を たすけるために
今日 どんなことが できますか。

5



6

6. イエスは おなくなりになる前に、天の
お父さまに こう いのられました。
「父よ、わたしの れいを みてに ゆ
だねます。」(ルカ 23:46) あなたは
自分の いのりを もっと とくべつな
ものに するために どんなことが
できますか。



7. イエスは、なくなられた後、よみがえられました。
だから、わたしたちは ふかつさいを おい
わします。キリストは ふかつされた後、で
したちに すがたを あらわされて、こう 言わ
れました。「しんじないものに ならないで、しん
じるものに なりなさい。」(ヨハネ 20:27)
ふかつさいは なぜ 大切ですか。

7



すぐに

リチャード・M・ロムニーによる
インタビューをもとに書かれました
教会機関誌

わたしの名前はマグノリアです。スペイン語を話すワードに行っています。ある日、マイアが初等協会のクラスにきました。マイアは、英語だけ話します。わたしは、マイアがかんげいさされていると感じられるように、助けようと思いました。通訳になろうと思ったのです。

ついていく

マイアのために通訳しているとき、最初は、ついていくのが大変でした。すると、先生がもっとゆっくり話してくれたので、少し時間によゆうができました。わたしたちはみんな、マイアを助けてあげられて、良い気持ちを感じました。

て手をかしてください!

人々を助けることによって、どのように愛をしめますか。紙の上に手を乗せて、形をなぞり、切り取った紙にあなたのしたことを書き、写真と、お父さんかお母さんのきよかの手紙と一緒に送ってください。liahona.lds.org から送るか、liahona@ldschurch.org に電子メールを送ってください。

たくさんの共通点

二人とも、バプテスマとかくにんを受けたばかりです。二人とも、音楽、特に賛美歌と初等協会の歌が好きです。二人とも、家庭の夕べが好きです。二人とも、「リアホナ」にのっている物語を読むのが好きです。

「通訳」は、
だれかが話している言葉を、
外国語に変えて、
伝える人のことです。

マグノリア

理解する



ささやいて助ける

わたしの名前はマイアです。わたしの両親はスペイン語を話します。だから、わたしたちはスペイン語を話すワードに行きました。わたしは、みんなが話していることが分かりませんでした。マグノリアは、わたしがこまっているのを見て、わたしのとなりに来てくれて、わたしの耳元で英語をささやいてくれました。

どのように助けることができるか

マイアとマグノリアから学べるヒント

もしもだけれが ——

- 教会や学校に初めて来たら、かんげいされていると感じられるように助ける。
- あまり教会に来ていなかったら、一緒に行こうとさそう。
- いじめられていたら、味方になってあげる。先生に話す。
- さびしそうにしていたら、一緒に遊ぼうとさそう。
- 友達を必要としていたら、友達になってほしいと伝える。お父さんやお母さんのきょかをもらってから、家にしようたいして、一緒に遊ぶ。

2か国語以上を話せる場合は、通訳をしてあげる。

良い友達

初等協会の後、わたしはマグノリアに、友達になってもらえないかとたずねました。彼女は「いいわよ」と言いました。そのときから、マグノリアはわたしの友達になり、そして、通訳者になってくれました。他の人とも友達になれるように助けてくれました。

イエスがされたことを行う

マグノリアがわたしを助けてくれたように、だれでも、人を助けることができます。いのってください。天のお父様は、だれを助ければよいかわかるようにあなたを助けてくださいます。「もし主がそばにいたら」の歌とにいます（『フレンド』、1993年10月号、14）。わたしたちは、イエスが望んでおられることを行えるように努力できます。■

マイア

かしこい人とおろか者

たとえとは何ですか。

たとえは、特別なお話です。あらしや真珠などのように、人々がよく知っている、分かりやすいものについてのお話です。イエスは、人々が霊的な真理をよく理解できるように、たとえを話されました。マタイ13章44-46節に、一つのたとえがあります。そのたとえは、福音がどれほどとうといかについて、どんなことを教えているでしょうか。他のたとえを見つかりますか。

ジーン・ビンガム

ある日イエスは、大変なことが起こるときにも強くたくましく生きる方法を人々に教えたいと思われました。イエスは、大あらしとかしこい人とおろか者の物語をお話しになりました。あらしが来たとき、かしこい人の家はたおれませんでした。岩の上に建てられていたからです。でも、おろか者の家は、すなの上建てられていたので、たおれてしまいました。

イエスは、ご自分を信じる信仰を持つことや、ご自分の教えにしたがうことがどれほど大切かをお教えになりました。強い信仰をきずくとき、どんなに大変なことが起こっても、それにたえることができる強さを得ることができます。■
このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。

いわ
岩か、すなか。

このページの下に書かれている活動を、1まいの紙に一つ書きます。一人ずつ順番に紙を1まい取り、そこに書かれていることを読み、話し合います。そこに書かれていることを行うのは、岩の上に家を建てるのににっていますか。それともすなの上に家を建てるのににっていますか。またそれはなぜですか。預言者に聞きながら、イエスの教えにしたがってかしい選びをするために、どのように役立つでしょうか。

せいぶん いっしょ よ 聖文と一緒に読む	がっこう 学校のテストでカンニングをする
きけんなことをやってみる	あたら ひと なかま い 新しい人を仲間に入れてあげる
きよかい い 教会に行く	わる ことば 悪い言葉を使う
ほか ひと しっぱい 他の人の失敗をせめる	きょうだいとゲームをする
しゅくだい 宿題をする	ほか ひと わ あ 他の人と分かち合う
ほか ひと 他の人にそんけいをしめす	なん じかん 何時間もコンピューターゲームをする
ほんとう はな 本当のことを話す	ひと もの と 人の物を取る
だれかがいじめられているとき、なに い 何も言わずにだまっている	まいあさまいばん 毎朝毎晩いのる
たいかい はなし き そう大会のお話を聞く	なかまはず 仲間外れにされている人を仲間に入れてあげる

いわ さくひん
岩の作品

ひょうめん
表面のなめらかな岩を選びます。
マジックや絵の具で、岩に「イエス・キリスト」と書きます。
イエス・キリストの教えにしたがって生活することが
なぜそれほど大切かについて話し合います。
よく目にする場所に置いておきましょう。



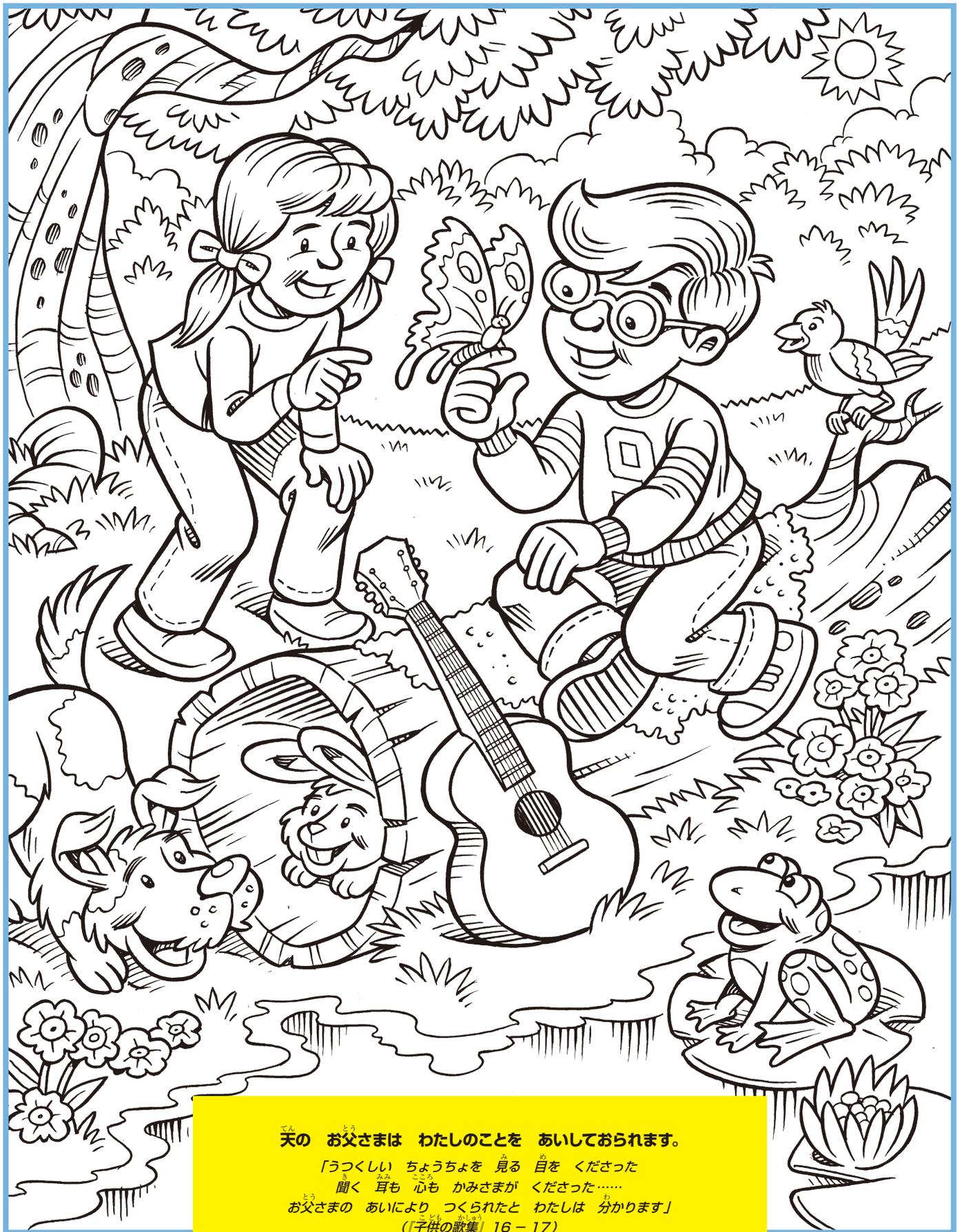
せいぶん
聖文のヒント

モルモン書を読むと、もっとよく新約聖書を理解することができます。ヒラマン5:12を読みます。このせいくを読んで岩の意味について、どんなことが分かりましたか。『聖文ガイド』の「岩」のところを調べて、その意味がもっとよく理解できるようなせいくを見つけてみましょう。

かぞく はな あ
家族の話し合い

マタイ7:24-29を一緒に読みましょう。物語の絵をかいてもよいでしょう。その後、次の質問について話し合ってもよいでしょう。わたしたちの人生の中で起こる、雨や風に例えられるものには、どのようなものがあるでしょうか。人々に人気があるものに合わせることが、砂の上に家を建てることとどのように似ているでしょうか。イエスの教えはどのようにわたしたちを守り、岩の上に建てられた家のように強くしてくれるでしょうか。イエス・キリストを信じる信仰をきずく方法について話し合ってください。
歌——「かしい人とおろか者」(『子供の歌集』132)

せいく——マタイ7:24-29



天のお父さまは わたしのことを あいしておられます。

「うつくしい ちょうちよを見る 目を くださった
聞く 耳も 心も かみさまが くださった……
お父さまの あいにより つくられたと わたしは 分かります」
(『子供の歌集』16-17)



ちゅうおうわか じよせいかいちやう
中央若い女性会長
ボニー・L・オスカーソン

星の下で読む 聖文



「心の中に温かいみたまがあふれる
……真実の聖典がとても好きです」
(『子供の歌集』66)

小さいとき、わたしたちきょうだいは、夏の間、外でねるのが好きでした。玄関前のポーチにねぶくろを広げて、星座を見つれたり、コオロギの鳴き声を聞いたりしながらねたものです。

あるばん、兄のラリーとわたしはポーチに出て行きました。わたしたちは体をのばして、星を見上げました。ふだん、ラリーはあまり話さない人でしたが、そのばんはわたしに物語を話して聞かせたいと言ってくれました。モルモン書の中の、リーハイと家

族がエルサレムを出発するところから話して聞かせてくれました。

前にも、初等協会でモルモン書の物語を聞いたことがありますが、ラリーが話してくれた物語は、ちがっていました。もっと本当のここのように感じました。星を見上げながら兄の話の聞いていると、とても温かく、幸せな気持ちを感じました。そのときは分かりませんでした。せいれいがモルモン書は真実だと教えてくださるのを感じていたのです。

数か月後、家でモルモン書の物語の絵本を見つけました。読み始めたとき、ラリーが同じ物語を話してくれたときに感じたのと同じように、温か

い、おだやかな気持ちを感じました。

何年もたって、自分にはあかしがあるのかどうかたしかめていたとき、何か大きくて、強い答えを受けたことがないことに少しがっかりしてしまいました。それはあかしがないということなのだろうかと思いました。そのとき、兄がモルモン書の物語を話してくれたときに感じた気持ちを思い出し、自分は教会が真実だと知っているとわかりました。

あかしは特別なときに一度だけえられるわけではありません。普通は、数多くの、小さな、静かなひとときにおとずれ、せいれいがそれは真実だとささやいてくださるのです。■

ILLUSTRATION: H. W. LAWRENCE

土曜日はよくねて、 日曜日はえがおで

ミツチェ・バルボサ

本当にあったお話をもとに書かれました。

「教会に行くとき、
いつも幸せな気持ちになります」
（『子供の歌集』〔英語〕157）

マ^マーラはみんなをえがおにするのが大好きでした。学校では手を挙げて質問して、先生をえがおにしました。妹のマルセラにはやさしい言葉をかけて、えがおにしました。

そうすると、マ^マーラもえがおになります。周りの人を幸せにすると、良

い気持ちがしました。でも、1週間に1度だけ、マ^マーラがえがおになれないときがあります。それは、日曜日の朝早くです。そのときは、マ^マーラとマルセラがいつも一番つかれているときなのです。あわてて教会に行くじゅんびをするので、余計に機

嫌が悪くなります。そのうえ、教会までかなり長いこと歩かなければなりません。教会まで1.5キロ以上あるのです。マ^マーラとマルセラはよくちこくしました。初等協会の最初の方に出不れなことがよくありました。「二人が時間どおりに来られない





と、残念だわ。」ある日曜日、リマしまいが言いました。リマしまいは、二人が通うブラジルのワードの初等協会会長です。

マーラは、時間どおりに教会に着かないといけなことは知っていました。でも、どうしたらそれができるのでしよう。マーラは良い考えを思いつきました。次の土曜日の夜、マーラは新しいことをためてみることにしました。

夕飯の後、ねる前にお菓子をごっそり食べたりせずに、マーラは歯をみがきました。ほとんど毎日、お母さんは二人にテレビを消してねるように言わないといけませんでした。それでも二人は夜おそくまでふとんの下でこそこそ遊んだりひそひそ話をしたりしていました。あまりおそくまで起きていて、目を開けていられないほどねむくなってしまふこともありました。ねむってしまわなように体をゆらゆら動かさなければなりませんでした。

でも、今日の夜は、マーラはパジャマを着るとすぐにベッドにもぐりこみました。お母さんから早くねるように言われる必要もありません。

せん。マーラはモルモン書の初めにある絵を見始めました。

「何しているの。」

マルセラが聞きました。

「テストよ」とマーラ。マーラの頭は楽しいことであっぴいでした。それに、もうねむくなってきていました。

気がつくと、マーラの横のまどから太陽が顔を見せていました。もう教会に行くじゅんびを始める時間でした。いつものいやな気分はなく、最高の気分でした。頭がぐらくらすすることもありません。体もつかれていません。

かれています。何人かの指導者よりも前に、初等協会に着いてしまいました。

「他のみんなの良いものはんになってくれてありがとう」とリマしまいから言われました。

今度は、マーラがえがおになる番でした。土曜日はいつも早くねるようにしようと決めました。そうすれば、日曜日に一日中えがおでいることができるからです。■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。





十二使徒定員会
オーソン・F・
ホイットニー長老
(1855 - 1931年)

岩の上に建てる

この教会を管理するのに十分に大きな、あるいは十分に詳しい書物などは存在しないのです。

何年も前のことですが、[他の]教会の学識ある聖職者がユタ州を訪問しました。……彼は以前「モルモン」の聖餐会せいさんに出席したことがあり、わたしたちの教会の、主の晩餐の聖餐の執行方法について、批判的なことをかなり口にしていました。特に、聖餐の場で、ぶどう酒ではなく水を使用することについては、否定的でした。彼は、人々が水を飲む光景を目にしたときなどは、身震いしたと言っています。そして、彼はある事実を指摘しました。つまり、聖書によれば、救い主がユダヤ人に聖餐の儀式を教えられたとき、ぶどう酒をお使いになり、それが主の血、つまり、主の血の象徴であることを宣言されたという事実を彼は指摘したのです。間違いなく、それは事実です。さらに付け加えれば、モルモン書の中にも、救い主がニーファイ人の中に聖餐を定められたとき、ぶどう酒をお使いになったという記載があります。

わたしのこの……友人は、知ってか知らずか、神の教会とこの地上に存在する他のあらゆる教会とを区別する重大な相違点についての的確な指摘をしたのです。それは、他の教会が書物や慣習や人の教えを土台にしている一方で、この教会がキリストの岩の上に建てられ、また、直接的な絶えざる啓示という原則



の上に建てられているということです。末日聖徒は、たまたまそれが〔聖典〕に印刷されていたからという理由で何かを行うということはありません。また、神がユダヤ人に命じられたからという理由で、何かを行うこともありません。さらに、キリストがニーファイの民にあることを指示したからという理由でそれをするということもありませんし、逆にしないで済ませておくということもありません。

この教会で〔公式に〕行われていることは全て、今この時代に天から語る神がこの教会に行くようにとお命じになったから行われているのです。……これがキリストの教会の制度です。わたしたちが主の晩餐の聖餐会でぶどう酒ではなく、水を使っているというのなら、それはキリストがそのように命じられたからなのです。〔教義と聖約 27:1 - 4 参照〕

神の啓示は人の環境や状況に適切に合わせて与えられます。その結果、神の業がその目的に向かって前進するのに応じて、次々に変更が加えられます。この

教会を管理するのに十分に大きな、あるいは十分に詳しい書物などは存在しないのです。

そうは言っても、わたしは書き出された神の言葉、つまり書物として印刷された神の言葉に対しても十分な敬意を払っています。その中にはもう古くなり、その目的を達してしまっ、長い間棚の上に置かれているものもあるかもしれませんが〔例えば、動物の犠牲など。3ニーファイ 9:19 - 20 参照〕。あるいは、今でも力があって生命力に満ち、わたしたちの現在の状態、つまりわたしたちの進歩の段階に当てはまるものもあります。しかし、そういうものであっても、正しく解釈する必要があります。神に代わって語り、神の言葉を解き明かす神の代弁者に反対して、書物に書かれていることを擁護してはならないのです〔教義と聖約 1:37 - 38 参照〕。そうすることは、生ける預言者よりも古い死んだ文書を尊重するというものであり、どのようなときにも間違った考え方です。

2000年前にユダヤ人やニーファイの民に向かって主が言われたことでも、あるいは50年60年前に末日聖徒に言われたことでも、現代の啓示に合致していなければ、あるいは、主が選ばれ指名された僕たちしもべと僕を通じて与えられたその民に対する最も新しい主の教えに一致していなければ、この時代にあってはその言葉にはいかなる力もありません。そして、この事実をないがしろにする人々は窮地に立たされることになるでしょう。■

1916年10月7日の総大会で述べられた説教から抜粋。
「岩の上に建てる」『リアホナ』2010年6月号、12 - 13で再度掲載された。

洞 察



親の務めにおける父親の役割は何でしょうか。

「父親は子供たちのために祝福を与え、神聖な儀式を行います。これは子供たちの生活において霊的に重要な部分となります。父親は個人として積極的に、家族の祈り、毎日聖文を読むこと、毎週の家庭の夕べを導きます。父親は家族全員が参加する旅行や外出の計画を積極的に助けることで、家族の伝統を築きます。一緒に過ごすこうした特別な時間についての思い出は子供たちの胸にいつまでも残ります。父親は定期的に子供たち一人一人と話し合う機会をつくり、福音の原則を教えます。父親は息子や娘に労働の価値を教え、それぞれの人生においてふさわしい目標を立てられるよう助けます。父親は福音で教えられている忠実な奉仕の模範を示します。兄弟の皆さん、イスラエルの父親としての神聖な召し、決して解任されることのない最も重要な召しをどうぞ忘れないでください。」

家族, 友人, 隣人と ともに集う

末日聖徒イエス・キリスト教会 第185回年次総大会

2015年4月4-5日 — 一般部会 (対象者: 全ての会員)

2015年3月28日 — 中央女性部会 (対象者: 8歳以上の少女と女性)

2015年4月4日 — 神権部会 (対象者: 12歳以上の少年と男性)

全ての部会は、ユタ州ソルトレーク・シティーのカンファレンス・センターで行われ、世界中の集会所に放送されます。LDS.org にアクセスすれば、多くの言語で大会の様様を視聴することができます。また、幾つかの言語は、BYU テレビ、"Mormon Channel" プラットフォーム、"LDS general conference YouTube" チャンネルでも視聴することができます。各説教のアーカイブは、LDS.org および「福音ライブラリー」アプリで利用することができます。



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

JAPANESE



4
02125633000
12563 300
0